



25
275



始



特 219
898



式
辭
集



は し が き

本式辭集は、予が商業教育に従事せし以來の祝詞告辭及び之れに近似せるものを集めたるものなり。

式辭と云ふ時は、文字通りには儀式上の辭禮と云ふことなれば、普通一般にはお世辭たつぶりの形式的字句の排列が至當なるかに考へらるれど、予は全く其見解を異にす。

本集に收めたる諸片、予は何れも眞心こめて其時の心持ちを書き綴れり、特に卒業生に與へたる告辭の如きは、倫理上の信念處世上の要道、何一つもらすことなからんことを期せり。然も其至らざるもの多かりしは、情迫りて筆走らず、涙多くして思足らざりしに由る。

本集收むる所に二三論文やうのものあるは、一面之れ等が式辭に近似せると、又

他面には、之れ等が予の倫理上若くは教育上の所信の發露であり、従つて予の手に成れる總べての式辭の由りて來る源泉とも見らるべしと思ひしが故なり。時代思潮混亂の際とて岐路に立つ青年も多からん、然も予の教へ子ごもの中にもさるものあらんかなご考ふる時、憂慮に堪えぬ。若しそれ本集を繙くもの、何れかの一片に由りて、處世上何等かの暗示を得ることあらんか、予の望は即ち足る。

昭和四年八月

名古屋高等商業學校に於て

渡邊龍聖誌す

一、小樽高等商業學校開校十周年式に於ける式辭

二、小樽高等商業學校に於て第二回入學生を迎へて、附社交十六則

三、小樽高等商業學校に於ける卒業式告辭

其一 大正三年三月 第一回卒業式に於て

其二 大正四年三月 第二回卒業式に於て

其三 大正五年三月 第三回卒業式に於て

其四 大正六年三月 第四回卒業式に於て

其五 大正七年三月 第五回卒業式に於て

其六 大正八年三月 第六回卒業式に於て

其七 大正九年三月 第七回卒業式に於て

四、名古屋高等商業學校開校五周年式に於ける式辭

五、名古屋高等商業學校に於ける卒業式告辭

- 其一 大正十三年三月 第一回卒業式に於て
- 其二 大正十四年三月 第二回卒業式に於て
- 其三 大正十五年三月 第三回卒業式に於て(概要)
- 其四 昭和三年三月 第五回卒業式に於て(概要)
- 其五 昭和四年三月 第六回卒業式に於て(概要)

六、昭和開元第一元旦の式辭

七、聖上陛下に奏上せしことば

八、昭和三年戊辰の春を迎へて

九、直轄學校其他に於ける祝辭

- 其一 大正十五年三月 和歌山高等商業學校第一回卒業證書授與式に於て
- 其二 大正十五年十月 高松高等商業學校開校式に於て
- 其三 大正十五年十月 横濱高等商業學校開校式に於て
- 其四 昭和二年 一、澁澤子爵米壽祝賀記念出版の折柄に

二首相招待の午餐會席上に於て一同を代表して

- 其五 昭和三年六月 名古屋市立第三商業學校新築落成式に於て
- 其六 昭和三年十月 高岡高等商業學校開校式に於て
- 其七 昭和三年十月 愛知縣立第一中學校五十週周記念式に於て
- 其八 昭和三年十一月 彦根高等商業學校五周年記念式に於て
- 其九 昭和四年十一月 岐阜高等農林學校植物園設定式に於て
- 其十 昭和四年二月 中京商業學校野球場設定披露式に於て

十、小樽高商開校當時の思出

十一、補論

- 其一 商業經濟の歸趨としての世界經濟
- 其二 産業振興と教育の改善

一、小樽高等商業學校開校十周年式に於ける式辭

式 辭

本校は明治四十五年五月五日の開校にして、創業の際は職員数も多からず第一回入學許可者亦僅かに七十二名、今日より當時を回顧せば眞に感慨無量なり。本校は地理氣候等の關係より本土の居住者よりは異域の如くに思惟せられ、之が經營につきては事不利益の諸點多かりしも、十年間諸事順調に運び、年々歩一歩進歩發達して、今日にては全校職員六十一名生徒總數五百六十一名、既に第八回卒業生を社會に送り、其等卒業生亦適所に就職して母校の名聲を辱しめざる状態となりしは、要するに、内は職員一致共同の勤勉努力により、外は今日此式に參列せられたる來賓各位、廣くは小樽區民本道在留者等の直接間接の援助によること、此の式典に臨み感謝の意を表す。翻つて惟ふに本校創立以來其發展上及び内容充實上爲すべき事は多々枚舉に暇あらざりしが、想餘りありて力足らざる爲め、志す事業の幾分も完成せざりしは、全く非才鈍骨の致す所にして、甚だ慚愧に堪へず。今日十周年の式典を舉ぐるに當り、閣下並に諸君各位の來臨を辱うし、斯く盛大にして光榮ある式場となりしは、誠に感激に

堪へざる所なり。此際本校を經營するに如何なる方針を以てせしやを各位に披露して其批判を仰ぐは強ち機宜を失せる措置ならずと思考し、此に暫時各位の清聽を煩はさんとす。本校は商業教育の専門學校なり、本校をして「専門學校らしくあり専門學校らしくあらせたし」とは余が十年一貫して把持せる所の方針なり。若し之に希望的意味を加ふれば模範的専門學校たらしめたいといふが理想なり。近來専門學校内に昇格運動なるもの起れり。我輩も専門學校の昇格には滿腔の賛意を表す。然し我輩の所謂昇格は専門學校を専門學校としての資格を向上せしむる意味の昇格にて、近來行はるゝ所の専門學校を變じて大學と爲さんとする昇格運動は我輩の素志にあらず。我輩をして云はしむれば此の如き昇格は眞の昇格にあらずして變格なり。要するにこは専門學校が如何なるものにして如何なる職分を盡すべきものなりやとの眞の理解なきより起る所の結果なり。大學令に曰く、大學は學術の理論及應用を教授する所なりと、即ち大學の本分は理論を主として應用を兼ねるにあり。専門學校令に曰く、専門學校は高等の學術技能を教授する所なりと、即ち専門學校の職分は應用を主として理論に兼ね及ぶにあり。専門學校といふその専門の二字が此意味を表徴す。理

論の専門なるものはあり得べきことにあらず、理論が應用せられて始めて各種の専門は現はる。専門學校令の所謂學術技能は學術技能の理論的方面にあらずして應用的方面を云ふこと明かなり。されば大學と専門學校とは兩々相並ぶべく之を譬ふれば車の兩輪、鳥の兩翼の如し、共に國家の教育機關としての最高學府にして、一は理論を主として應用に兼ね及ぶ最高學府、一は應用を主として理論に兼ね及ぶ最高學府なり。故に何れを高しとし何れを低しとするを得ず。然るに専門學校を變じて大學に爲さんとする運動は己れの本質を卑んで他に化せんとする運動にして、世に所謂宗旨代をするに異ならず。國家の教育機關としては學者を作ることとを主とする大學も必要、亦實際家を作る専門學校も必要なり。何故に一を變じて他に化せんとするか。然しながら此種の運動の起るは又其因つて來る原因のなすあり。この原因は甚だ卑近なるものにして、今日までの慣習上大學は國家の教育正系統の最高學府、専門學校は其傍系統の速成的専門家を養成する所と思考せらる。又政府も往々にして其取扱上前述の如き態度を取ることなきにしもあらず。されば政府も社會も、大學と専門學校とは懸隔あるものと認むる以上は、専門學校を變じて大學と爲したしといふが昇格

運動者の心理状態なり。物に高下ありとせば、低きより高きに昇らんとするは人情の常なり。専門學校は低きものにて大學は高きものと認めらるゝとせば、自然高きに登らんとする人情の湧き出づるは止むを得ざるの事なり。然れども、専門學校令を見るに、専門學校は決して大學より低きものにあらず。専門學校は中學校を卒業したる者を收容し、修業年限亦三ヶ年以上と規定せらる。豫科も必要に應じて置くことを得、又必要の際は研究科をも設置し得る也。故に入學資格の點よりするも亦修業年限の點よりするも、この法令を十分に運用せば、決して大學に劣るものとは何人も云ひ得る所にあらず。

若し實質に於て専門學校が大學に劣るとせば、之は専門學校令を十分に運用せざる所より起るものにて、たゞ其種の専門學校が然りとして他の總ての専門學校は大學よりも劣るもの也とは斷ざるを得ず。文部大臣は時の必要に應じて修業年限を定むるが故に必要ある時は何時にても修業年限を延長するは無論のこと也。徒らに修業年限の長短のみを以て其の高下を論ずるは妥當なりと云ふを得ず。勿論或種の専門學校は他の種の専門學校に比して長き修學期間を必要とす。例へば我國の帝國大學

ては醫學部は文學部、法學部等の他の學部よりも修業年限長し、其の爲めに醫學部は他の學部よりも其位置高しと云ふべきにあらず。北米合衆國にては過去に於て法科大學は文科其他の大學に比して其入學資格低かりしのみならず、修業年限亦著しく短かりき。然るに今日に於ては却て法科大學は文科大學卒業者若しくは文科大學二ヶ年を修了したる者にあざれば入學せしめずとの大學も出現するに至れり。然し之は單に研究の必要上起れるものなるが故に、年限の長短に依りて或るものは他に比して位置高しとか、或は低しとか論ぜらるべきものにあらず。専門學校が大學より修業年限短かき故、其下位にありとか、又は法科が醫科よりも修業年限短かきより低位にありとか云はるべきものにもあらず。況んや専門學校は専門學校令によれば必要なる場合には大學よりも修業年限を延長することを得るに於てをや。故にこの兩者間決して位置の高下を論ずべき餘地あるを見ず。但し兩者は其職分を異にすとの區別あり、然りと雖も現今各種の事情に制肘され、専門學校として専門學校令に規定されたる精神を十分に發揮し能はず、専門學校として十分の發展を遂ぐる能はざるが如き状態にあるは、國家教育の爲め決して慶賀すべきことにあらず。されど我思ふ

に賢明なる現政府當局者は遠からざる未來に於て専門學校の位置待遇等を改めて大學との權衡を保たしめ昇格運動の原因を除去するに吝ならずと。我輩の所信にては國家は飽くまでも専門學校を必要とす、吾國の専門學校教育は他の歐米諸國に餘り類例なき制度なれども然かも時宜に適したる制度なるが故に、飽くまでも之を發達せしめ以て世界に對する我國の誇りとなしたし、斯の如き見地より我輩は本校を専門學校らしくあらしめたしとの希望を以て經營今日に及べるなり。

本校は明治四十年文部省より第五高等商業學校として設立の件を第二十四帝國議會に提出し其協賛を経てこゝに設置することに決し、學科の編成又は教養の方針等につきては先輩高等商業諸學校に負ふ所少からず、たゞ先輩高等商業諸學校に於て教授せざる科目にして本校獨特の學科三あり、一は商業實踐、二は企業實踐、三は商品實驗なり。商業實踐科は擬營實踐の方法を取り各種の商業機關、銀行、倉庫、保險、運送等の機關を設けて賣買取引を文字通りに實習せしむ、其の目的は教場にて教授せられたる商業諸學科を實際に應用練習せしめんとするにあり。ジョン、デューエー教授は學校は社會生活の準備の場所にあらずして社會其者なりと云ふ、今我輩も我校は商業

社會に出づる準備を爲すの場所にあらずして商業社會其者なりと思はしめんとの見地より開校以來此商業實踐科に重きを置きを置けり。次に企業實踐科に於ては現在石鹼工場を設け科學的管理法を實施し以て工場管理、原價計算、能率増進等の所謂商工經營を實踐せしむ。次に商品實驗科に於ては天產品と製造品とを分ち重要商品の製造取扱、品位鑑定等を實驗せしむ。商業學の基礎は經濟學にして、經濟學の應用的方面は賣買と企業となり、然して賣買も企業も共に商品を主体とするが故に、賣買と企業と商品とが經濟學の經濟的價值を表示すと云ふべし。故に専門學校としての本校は經濟學、商業學の理論を授くるは勿論なるも、單に之のみを以て満足せず之を活用することをも授けざるべからずとの見地より、賣買實習の爲めに商業實踐科を起し、企業實習の爲めに企業實踐科を起し、商品實習の爲めに商品實驗科を起したるなり、之れ即ち本校をして専門學校らしき専門學校たらしめんとする素志に出でしに外ならず。本校教養の趣旨に就きては第一回生を迎へて以來我等は常に生徒諸子を遇するに少年紳士の禮を以てすと言へり、之は今日と雖も敢へて變らず、これ我校の生徒が入學の當初より少年紳士たるの資格あるにより紳士の禮を以て遇するにはあらず、紳

士の資格あらしめたとの希望より其禮を以てする也。從來我國封建制度の下には士農工商の階級區別ありて、士を最高とし、農は之に次ぎ、商は最も下位に置かれたり、こは鎖國の方針を取れるために自給自足の方法を講ぜざるべからざるより、衣食の生産に働く農を主要の者とし、製造者たる工は之に次ぎ、生産者にあらず製造者にあらず徒らに一方の生産を他方に移して以て利潤を得るところの商人は有無不關の職業の如くに見做されたる故なり。鎖國攘夷、自給自足といふ國家の方針より見る時は無理からぬ事なれども、今日にては時勢一變してこの有無不關と思惟されたる商人が經濟狀態の變遷、世界的交通の開展等の關係より國家經濟上最も緊要なる機關となれり。嘗て馬越恭平氏が本校に於て今は士農工商の階級時代にあらずして商工農士の階級時代なりと喝破されたりしが、實に時勢に適切なる言といふべし。されば商は國家の存立上最も肝要なる職業也。時代は勿論のこと、國と國との經濟關係は全く商人の手により自由に左右さる。故に商業家、この重要な商の職業に従事する者を養成する本校の任務も亦重大なりと云はざるべからず。有無不關時代の商人の所謂町人根性といふが如き品格にては今日の社會の存立をすら危くする恐あり、加

之對外關係上、國の位置をも危くする恐あり。今日の商人は、智識技能は勿論其品格の上にも、國民の上位を占むべき資格を備へざるべからず。要するに紳士中の紳士、智識徳望共に紳士中の紳士ならざるべからず。この故に斯く重大なる任務を荷ふ商業家たらんとする本校生徒は、在學中常に紳士の資格を具備せざるべからざるが故に、少年紳士を以て遇するを主義とせる也。希望は須らく大なるべし、我校の抱負は本邦に於ける最高最善の専門學校たらんとするにあり、否全世界に於て其然らんことを期す。我校の先輩學校にして本邦商業界に多數の傑物俊才を輩出し、而も我校が一方ならぬ恩義を受けし東京高商は前年宗旨替を爲して商科大學に變格せり。神戸高商も亦近きに其例に倣はんとすと聞けり。一ツ橋も神戸も専門學校の家系を棄て、大學系に入婿となりたる曉には、我校立たずんば我邦の商業専門教育を如何にせん、我が小樽高等商業學校が應さに活躍すべき時は到れり。

小樽は北海の良港にして本道經濟上の中心地なり。今の小樽は大ならざるも、日進月歩の繁榮を來しつゝ、あれば年久しからずして大小樽を出ださん。地中海の商權は太西洋に移れり、南北樺太の發展、東部西比利亞の開發と共に逐次日本海の繁榮も見我

小樽港が羅馬時代のヴェニスたるの日遠きにあらずと信ず。ユーフラチース河畔に生れたる初代の文明は二個の潮流を爲し、一は北漸し、一は東漸せり。其東漸したる潮流は印度、支那、朝鮮を経て我邦に留ること久し、其北漸したる潮流はギリシヤ、ローマを経てフランスより英國に到り、方面を變じ西漸して北米合衆國に進み更に我日本帝國に來る。今や我國は北漸の潮流と東漸の潮流との集合點、東西文化の接衝點となれり。されば東漸の文化と北漸の文化とを結合咀嚼し茲に新なる新文化を生み新潮流を起して永劫の地を征服するは我國民の使命なり。案ずるに我文化の潮流を直に迎へんとするもの西に朝鮮、支那あり、北に南北樺太、東部西比利亞あり、樺太、西比利亞に進まんとする文化潮流の足溜りとなり策源地となるべきは、我小樽港を措き他に之を求むる能はざるなり。小樽の未來は香し、多望多幸也。小樽にある我校の將來は譽あるべし。我校の位置は高し、實備はるの時其名も高かるべし。

大小樽に於ける大専門學校、世界に模範たるべき高等商業學校が、我校の抱負なり。單科大學の席末に加はり微々たる喘氣を保たんが如きは、我れの希望にあらざるなり。

二、小樽高等商業學校に於て第二回入學生を迎へて

附 社 交 十 六 則

諸子を迎ふ

本學年の始、新入學生を迎へる時に當つて、吾輩公用上京中であつた爲に、當時生徒諸子と親しく面接するの機會を得なかつたのは、甚だ遺憾とする所である。

さて、本校教養の大要に關しては、第二年生諸子は、已に其大體を會得して居ることと思ふが、第一年生諸子は、未だ其知る所多くないことと想像する。されば、今後に於て、尙ほ逐次其方針を説明する機會があることと思ふけれども、茲に少しく宣明して置きたい積りである。

由來本校は創立日尙ほ淺く、其成績の如何は、主として職員各位の奮勵と、生徒諸子の勤勉如何に由るのである。諸子は、本校第一回、又は第二回の卒業生として校門を出て、社會に本校を紹介する重大の任務を有する人であつて、諸子の卒業後、社會に於ける成績は、即ち、本校の運命に關するのである。將來、本校の門を出づべき幾十幾萬の後進者の運命を支配するのである。とにかく、諸子の在學中は、吾輩並に職員は、諸子を待つに、少年紳士を以てする故に、諸子はこの禮遇に相當すべきやう、自重心を高め、且又其

品格を備ふるやう、修養を怠つてはならぬ。

一體、紳士とは其形態の如何ではなくて、其品性の如何にある。品性の由つて以て發動する行動にある。所謂外面の生活でなくて、其内面的生活の如何にある。陋巷に在るも、顔回は亞聖である。王者生活を爲すと云うても、盜跖は遂に盜賊たるの誹を免れない。或は身に錦繡の美服を纏ふも、藝者は藝者で、粗末な綿服を着くると雖も貴夫人は貴夫人である。されば諸子は朝に自動車を驅つて道路の怨を買ひ、夕に九尺二間の裏店に蟄居して不善を爲す底の形態上の紳士たることなく、よし筒袖に前垂掛で丁稚小僧と相伍するとも、寒天に車を挽いて終日市に售るとも、常に孟子の所謂浩然の氣を呼吸し、白刃頸に觸るゝも、大山前に崩るゝとも、毅然として動かざる底の信念に立つて奮闘する所の品性上の紳士となつて貰ひたい。この信念を得るには、一に反省にある。自重にある。修養にある。世人動々もすれば、この自重と、彼の不遜とを混同する向きがあるが、この兩者は全く反對のものである。自重し反省し修養を怠らぬ紳士は、決して輕舉盲動を敢へてしない。必ず禮讓を重んじ、秩序に従ひ、法令規律を尊ぶものである。年少紳士たる諸子にして、若し之に反する動作あらんか、本校は直ちに諸子に對し

この禮遇を停止するであらう。自重と不遜とを混同する様に、世には、往々また、自由と不規律とを混同し、我儘勝手放肆の態度を以て自由と誤解して居る者がある。此の如きは、小供の我儘、野蠻人の狂行、又は野獸の動作と選ぶ所がない。

次に、諸子は、常に、本校入學の目的を忘れてはならぬ。人は、各種の欲望、衝動等の凝りてある。故に、一時的衝動や、欲望の爲に、不覺にも、永遠の目的を失ふ様なことが起つて來る。星冴ゆる深夜、人定まつて後、沈思黙考せよ、必ずや自己は何の爲に生れ、何の爲に活き、何の爲に學問し、何の爲に努力し、何の爲に活動するか、といふことに想到するであらう。この間に於て、自己の本分、人間生存の意義を討ぬれば、不知不識の間、或閃きに接し得る。此瞬間、自己を客觀し、而してよく靜思反省せば、必ず人間としての我を知り、自覺し得るであらう。

諸子が、現在學びつゝある所は、高等専門學校である。高等専門學校は、階梯の學校ではなくて、終局の學校である。故に、其教ふる所、學ぶ所は、早速實世間に出で活用し得る底の實用的でなければならぬ。應用的でなければならぬ。或學科に偏重してはならない。或は卑近であるというて、輕視する様なことがあつてはならぬ。而して常に、卒業後は

直ちに世間の人となるといふ觀念を以て、學生たるの本分を忘れぬと同時に、人間としての修養を怠つてはならぬ。彼の天才は眞似て出来るものではない、生るゝものである。故に諸子は、少數なる天才の異常なる發展を憧憬して、遂に失敗と不満とに泣く様な愚を爲すことなく、一を得ば二を望み、二を得ば即ち三を望むといふ様に、秩序ある眞摯なる態度を以て、出來得る限り物質的財を獲得すると共に、人間としての財即ち徳をも作り、緩つくりと急いで完全なる人格の人にならなければならぬ。即ち、例外を除いては、一般に常識的でなければならぬ。殊に將來學者でなく、眞の實業家たらんとする諸子に於て益々然りである。

然り、本校卒業證書は、即ち、實業社會に入るの門鑑である。故に諸子は、在學中に、其心掛けて勤勉しなければならぬ。平常の練習を怠つて、然も最後の舞臺に勝利を得る者は、未だ聞いた事がない。活社會に必要な要素は、總べて在學中に之を修得せなければならぬ。これが爲、諸子は、在學中に、着實なる知識と、健全なる身體と、堅忍不拔の意志とを修得せねばならぬ。故に、教場に在つては、着實なる知識を修得し、體操場や運動場では、益々強健なる身體に練り上げ、堅忍不拔の意志は、所の何たるを問はず、時々刻々行

住坐臥事々物々に當つて、之を修得する様務めなければならぬ。

吾が校友會に三部ある。この部をよく利用すれば、前三者を修得するのに最も良い機關である。即ち、學藝部は、着實なる知識を修得するに適し、運動部は、健全なる身體を鍛練するに適し、武道部は、忍耐堅固の意志を練磨するに適して居る。諸子は、幸に、之を善用することに勤められたい。

前にも少し述べた如く、何れの職業にも必要であるが、特に商業家に缺くべからざる要素は、常識と秩序と調和とである。此三者がないか、又は、其或一を缺いて居るかすれば、諸子は、到底商業家として成功覺束ないのである。この常識とは、英語で「コンモンセンス」と云ふ。「コンモンセンス」とは、「センス、コンモン、ツール、オール」と云ふ意味で、何人も、共通に持つて居なければならぬ直覺的心識をいふのである。例へば色の識別で、雪は白し、朱肉は赤し、春夏の樹葉は青緑なり、と云ふ様な事は、共通の直覺である。素より世間には、色盲と云うて特殊の色を識別することが出來ぬ者もあるけれども、之は例外である。常識といふのは、即ち、眼といふ機關が、物體の色を識別する様に、心といふ機關が、社交上の出來事に對して發動するに必要な能力をいふのである。然し、其が、眼の本

能的識別と異なるのは、境遇と修養とに由つて、程度の著しく相違する點にある。本邦商人が、對外貿易等に於て失敗する最大原因は、非常識な點にある。學校在學中に非常識な者が、卒業して社會に出た其日から、急に常識を備へ、立派な人格となることは不可能である。故に、在學中から、この方面の修養が必要である。

次に秩序は、萬業成功の基、特に、實業家に於て然りとなす所である。古往今來、秩序ある者が失敗したといふ事は聞かぬと共に、不秩序で成功したといふことも聞いたことがない。

次に調和。商業は誠には、是れ四民調和の機關である。商業家あるが爲めに、四民共同の生活を爲し得るのである。進化的社會學者の説に曰く、社會は一の有機體なりと。縱し社會は有機體でないとしても、有機的關係のあるもので、此關係は商業に由りて圓滑にされるのである。實に商業家の社會に於ける位置は、大動脈、大靜脈の有機體に於ける關係の様なるものである。かるが故に、商業家たらんとする諸子は、今より、この調和の徳を養成しなければならぬ。調和は徳である。又技術である。故に工夫して修得することを得べく、又練磨して上達することも出来る。

彼の豪傑肌、議論好、又は仙人氣取等は、商業家には禁物である。これ等は調和、秩序、常識の三徳共に缺乏して居る者である。社會を賤んで、己れ獨り豪傑を氣取り、或は超然として脱俗の風を装ふ如きは、人の人たる所以、人間としての自己を忘却するものである。非凡の士と云ふのは、常識、調和、秩序の三徳を最も圓滿に具有して、膽力と知識と、經驗と備はつた人に於てのみ、之を見ることが出来る。水中に在つてこそ水練の達人たることが出来る様に、社會の中に在つてこそ、よく非凡の士たることが出来るのである。河童は、河に在りてこそ河童たり、猿は、木に在りてこそ猿である。人の人たる所以も亦實にこれに外ならぬのである。彼の釋迦を見よ。彼れは、人間の生活を卑んで、王位を捨て、雪山に這入つた。さて修養の結果、人としての我の自覺となり、遂に山から出て、又人間社會に交つた。然も曩には、王者の交りであつたが、今や匹夫匹婦と相伍して不安がない。此に於てこそ、釋迦如來と云はるゝのである。基督、モハメット、日蓮、親鸞、何れも超凡の士である。其超凡の士なる所以は、共に世間凡俗の中に在つて超然たるが故である。故に、諸子も此間の消息をよく會得し、學生としての本分に勤勉なると共に、人としての我の修養を怠つてはならぬ。

- (一) 政治宗教等意見を異にし易き談話を避くべし。
- (二) 第三者の批評をなすは禍を醸し易きのみならず、己の品位の下劣なるを示すなり。
- (三) 大言壯語を爲す者は傍若無人の誹を招く。
- (四) 自己の經驗談を漫りに人に聞かしめんとするは不敬なり。
- (五) 獨立自尊は己を持する覺悟としてのみ尊し、人に接して漫りに之を標榜する時は驕慢無禮となる。
- (六) 己の身分の高きを示さんとすれば、即ち他人の身分の卑きを示すこと、なるを忘るべからず。
- (七) 權力者に阿諛するは自己の人格を下落せしむ、然れども敬意を表せざる者は破壊的性質あることを表顯す。
- (八) 社交には自己を忘るべし、人に對する時常に「己が己が」といふ觀念浮み出る時は

交際圓滿ならず。

- (九) 第三者の美德を譽むる際、相手方に對して往々諷刺的なることあり、注意すべし。
- (一〇) 自己の手柄話は聞き苦し、對者をして輕侮の念を起さしめ、手前味噌の誹を免れず。
- (一一) 人の話は敬聽すべし、然れども尻馬に乗るべからず、落ちたる時は見苦し。
- (一二) 人の話口を奪ふは卑劣なり、我利々々の人物にあらざれば之を爲さず。
- (一三) 謙讓は美德なり、然れども猥りに卑下すれば偽りとなる。
- (一四) 進んで牛耳を執らんとすれば擯斥せらる、牛耳は一攫すべきものにあらず。
- (一五) 人の落度失敗は見ざるべし、聞かざるべし、言はざるべし、是れ所謂古人の社交上の三ざりなり。
- (一六) 體裁振れば人に嫌はれ、勿體振れば人に嗤はる、氣取る者には嫌味あり。

三、小樽高等商業學校に於ける卒業式告辭

告 辭 其 一

本日本校第一回卒業證書授與式を舉行するに當り、折悪しく雨天となり且は雪融の際とて道路泥濘なるに然も本校は交通不便の山上にあり、之にも係らず來賓各位の臨場を賜はりしは本校の光榮とする所なり。扱第一回卒業生諸子、諸子は明治四十四年五月五日端午の節に本校第一回生徒として誕生せしが、光陰は矢の如く月日に關守なく何時しか三年の星霜を経、今日を以て將に校門を辭し去らんとす。顧みれば三年前諸子が同僚として共に入學せしは七十二名なりしが、研學の功空しからず本日卒業證書を受くるに至れる者は僅かに五十名、實に其約三分の一は失敗者落伍者となりて今日の榮譽を共にする能はざりしなり。予は諸子が勤勉によりて今日までの榮譽を得たるを祝福す。諸子は今や得意滿面意氣揚々として校門を辭し去らんとすべし。然れども諸子が今辭せんとするの校門は即ち社會に入るの門なり。諸子は本校に於て卒業生なれども社會てふ大なる學校に於ては僅かに入學及第者たるに過ぎず。されば予は寧ろ諸子が小心翼翼として校門を辭去せんことを切望す。諸子は在學

三年其學びし所尠からざるべきも、三年の學校教育は大海にも譬ふべき社會に比すれば尙井中に在りしに異ならず。諸子が在學中豊富に蓄積したりと信ずる學力も、社會に於ける活學門に比すれば疊の上の水練若しくは井中の見識に過ぎざるべし。井中に在りて天を仰ぎ天は斯くなりと信ずるは、井蛙の見なり。若し諸子が社會に出て學力豊富を自負する所あらんか、識者は諸子を目するに井底の蛙を以てすべし。諸子が將に出てんとする大海は、譬て諸子が夢想だもせざりし狂波怒濤の常に天を打ちつゝあるなり。諸子の先輩はこの狂波怒濤の中にありてよく奮闘しよく進みつゝあるなり。今や諸子は校門を辭してこの怒濤の中に投ぜんとす。宜しく小心翼々として先輩又は先覺者の指導を仰ぎ常に謙讓の態度を以て事に處すべし。若しこの覺悟なく井蛙的抱負を以て意氣揚々としてこの大海を渡らんと試みんか、溺死の悲運に陥るや必せり。諸子宜しく小心翼々謙讓の態度を以て社會の門に入るべし。然れども予が茲に謙讓なれといふは、決して無能無爲臆病たれと云ふにあらず。諸子須らく奮闘努力すべし。諸子須らく忍耐勤勉なるべし。諸子が本校に入學の際予は諸子に、努力奮闘は成功の父なり。忍耐勤勉は成功の母なりと告げたり。諸子若し常に謙讓にして此

父母に依りて導かれんか、假令其學術能力に些か缺くる所ありと雖も、諸子は成功の域に達せんよし成功の域に達せずとも失敗者、敗殘者たることなからん。諸子の成功も失敗も諸子の覺悟如何にあり。後日萬一失敗者となるものあるも、そは決して學校又は社會の罪にあらざること覺悟すべし。重ねて諸子に告ぐ、諸子は常に小心翼々として努力奮闘、忍耐勤勉の父母に依りて導かるべし。

告 辭 其 二

本日本校第二回卒業證書授與式を舉行するに當り、朝野來賓各位の臨場を忝うしたるは、本校の光榮とする所なり。

卒業生諸子、諸子は明治四十五年本校に入學し、爾來三星霜能く螢雪の功を積み、本日本校第二回卒業生として校門を辭し去らんとす。諸子は今當さに永く親みたる温き學生生活より離れて、比較的に冷酷なる社會てふ學校に入り、生存競争場裡に立たんとす。此に予は諸子の卒業を慶賀し、諸子の前途を祝福すると共に、諸子が社會てふ學校に於て成功の彼岸に達せんには多大の忍耐刻苦を要することを注意せざるべからず。

今や歐洲は一大修羅場と化し、轉た寒心に堪へず。然れども幸に既に平和の曙光を認む。其實現も亦遠きにあらざるべし。而して平和克復と共に之に従ふ所の者は、經濟的大戰爭なり。日清の役、日露の役を経過し、青島攻圍の目的を達したる我が帝國の武力に就ては、既に世界の定評あり。然れども開國五十年諸般の制度を改め、異常の進歩發

展を遂げたる我が帝國も、經濟上の世界的位置に就ては尙ほ貧弱國の列を脱し能はず。是れ我が當局者を始とし時勢達觀の人士が實業振興人才養成を急務とする所以なり。

此秋に當り諸子の卒業は我が實業界に人才を加ふるに似たり。故に諸子は歓迎を受くべし。然れども諸子の歓迎を受くる所以は諸子を人才と認め近き將來に於て大に斯界に貢献する所あらんとの豫期に基くものなれば、諸子にして針路を誤り斯の豫期に反することあらんか、今日の歓迎は直に嘲罵と化し去るべし。

人才とは何ぞや、曰く、才は材なり、用ふる所に従うて其用をなすを云ふ。豊太閤の大才たる所以は、彼れ草履取となりては能く草履取の用をなし、一卒となりては又能く卒たるの用をなし、一將となりては又能く將たるの用をなしたるにあり。見よ、實業界の偉人は丁稚小僧たるに適し、番頭たるに適し、主人たるに適したるの人なり。世には、人才を以て自任し通常の業務を見て己に適せずとなし、常に千里の馬伯樂に遇はざるを歎ずる者あり。是れ所謂漢學者流の自稱人才にして、活社會より見るときは何等價値なきの人才なり。諸子が最も警戒を加ふべきは、此種の人才なり。諸子に告ぐ、諸子に

して丁稚小僧たるの人才に非ずんば諸子は番頭たるの人才に非ず、諸子にして番頭たるの人才に非ずんば諸子は主人公たるの人才に非ず。

高きに登らんと欲するものは、必ず低きよりす。巍々たる大山も一簣の土塊より成る。

諸子高からんことを欲するか、低きより初めよ。諸子成功を欲するか、一簣を重ぜよ。

諸子が就く所の職業に尊卑の別なし、其尊卑の分るゝは諸子が其職業に對する適否如何より起る。

諸子よ、永く忘るゝ勿れ。諸子を國家的人才たらしめんとして養成したるは、本校なり。本校の名聲は全く諸子の雙肩に懸る。本校は常へに存在し、此後幾千幾萬の卒業生の運命は諸子の成功如何に由る。予は今や諸子に別れんとす。諸子自愛せよ。予が謂ふ所の自愛とは、諸子己れの人格を愛せよと云ふにあり。己れの身體を愛するは動物の本能なり、人にして始めて己れの人格を愛するを得べし。

告 辭 其 三

本日第三回の卒業證書授與式を舉行するに當り、來賓各位の臨場を辱うしたるは、本校の光榮とする所なり。卒業生諸子、諸子は、大正二年本校に入學し、爾來研學の功空しからず、本日卒業證書を受くるの光榮を擔へるは、慶賀に堪へず。予は、爰に多望有趣なる諸子の前途を祝福せんとす。

諸子が在學中に予が努めたるは、諸子をして學其者を以て學生生活の理想とせしめんとするに在りき。學校は幾度も諸子を試験せり、諸子は其都度合格して今卒業證書を受く。然れども試験は目的に在らずして方便なり、卒業證書は目的に在らずして目的を達したるを證明するの隨伴物なり、學校が三ヶ年間授けんと勤め、諸子が之を得んと努力したるは、學其者なり、學其者を以て理想とし、目的として努力したる諸子は、今日學生としての成功者となれり。

今諸子が入らんとする所の社會的生活は、今日迄諸子が經驗したる學校生活の如く單純ならず、生存競争、適者生存、弱者必滅の法則は遺憾なく行はれ、諸子が向はんとす

る所の實業界に於て特に其熾烈なるを認む。諸子適者たらんと欲するか、堅忍不拔の覺悟を要す。

予が送別の辭として既に諸子に贈りたるは、業其者なる三字と、兎と亀との競争なり。業其者なる三字は適者たらんと欲する諸子の理想となすべく、兎と亀との比喩は此理想を實現する方法即ち忍耐と勤勉とを諸子に教ふる所の者なり。

學其者が學生生活の理想たらざるべからざるが如く、業其者は社會的生活の理想たらざるべからず。俸給や所得は業其者に附隨する所の隨伴物に過ぎず。諸子若し徒らに隨伴物たる俸給や所得を目的とし、目的たるべき業其者を之れが方便となすことあらんか、諸子は適者たらんと欲して却て弱者必滅の群に入るを免れず。

予は前回の卒業式に於て、歐洲戰亂終熄の曉には經濟上世界的大戰爭の勃發すべきを豫言せり。然るに歐洲戰亂今に止まずして、而も既に經濟的大戰爭の開始を見る。今や我邦經濟界は此戰爭參加の爲めに相當資格ある商士を要する事甚だ急なり。此秋に際し諸子は訓練せられたる商士として將に經濟界に入らんとす。諸子能く戰はんか、尉官となり將官となり元帥となるも難きに非ざるなり。而して諸子が依つて以つ

て戰ふべき武器は、業其者と勤勉と忍耐となり。

再び諸子に告ぐ、業其者は諸子の理想なり、忍耐と勤勉とは之が實現の方法なり。

終りに臨んで予は諸子の自愛を希ふ。予が云ふ所の自愛とは、身體の健康と品性の向上とを包含す。身體の健康は節制の二字に由りて保持せられ得べく、品性の向上は自尊の二字に由りて期待せられ得べし。口は禍の門なり、又病の入るの門なり、此關門に於ける番兵は節の一字に若くはなし。之れ希臘の古哲が節制を四大徳の一に數へし所以なり。自己の品性の如何を知らんと欲せば、須く社會に於ける知己朋友の腦裏に影ぜられたる自己の肖像を注視すべし。名譽とは此肖像に附せられたる名稱なり。此肖像は自己の品性の寫眞なり。我の品性彌高うして、我の肖像彌美なり。醜婦、自己の寫眞の醜なるを見て寫眞師の無能を罵る。醜漢、社會に於ける自己の名聲の非なるを聞きて其の社會の無情を怒る。諸子、敢て醜婦醜漢を學ばんと欲するか。將に旅立せんとする我子を送出す時、父母の心情如何、送別の辭其盡くる所を知らざるべし。將に校門を辭し去らんとする諸子に告別の辭を述ぶる所の予の心情も亦之に譲らず。「アルママータ」たる本校は、永へに諸子の失敗を悲み諸子の成功を喜ぶべし。

告 辭 其 四

本日本校第四回卒業證書授與式を舉行するに當り朝野來賓各位臨場の光榮を賜ふ、
欣喜何ぞ之に加へん。

卒業生諸子、諸子多年螢雪の功空しからず、今卒業證書を受く。諸子が受けたる卒業證書は本校が諸子に授け得る所の最高の月桂冠なり。此冠は永へに諸子の身邊を飾るべし。諸子今や此冠を頂き校門を辭し活社會に入らんとす。予何を以て諸子に饒し、以て祝賀の意を表せんか。

孔子周を去る、老子之を送り、曰く、「富者は人に贈るに財を以てし、仁者は人に贈るに言を以てす。吾富む能はずと雖も而れども仁者の號を竊み、請ふ子に送るに言を以てせんとす」と。誠に知る、贈人以財者唯申即目之歡。蓋し財は之を用ふれば盡ればなり。贈人以言者能致修身之福。予は諸子終身の福を冀うて止まず。是れ此に老子を學んで敢て仁者の號を竊まんとする所以なり。

昨年予が第三回卒業生に贈りしは業其者の三字なり。本年已に諸子に贈りしは富勿

追の三字にして、今又新に至忠至信の四字を加へんと欲す。

名を追ふ者名を成さず、利を求むる者利を失ふ。富は追うて捕ふべからず、求めて得べからず。而も世擧つて之を希ふ。富果して得べきか、得べからざるか。

物あれば影あり、實あれば名あり、業あれば富之に伴ふ。諸子、富勿追、業其者に勵精せよ、富求めずして自ら到らん。

何をか至忠と云ふ。國を思つて己を忘る。是國に忠なる者なり。業を思つて身を顧みず、是其職に忠なる者なり。諸子、其職に就くや、事難易となく、憚る所なかるべく、勞逸となく、避くる所なかるべきなり。其委任せらるゝや、則ち恩寵を待まず、其遺忘せらるるや、則ち敢て怨恨せず、險易に其心を革めず、安危に其志を變ぜず、是れ則ち天武后が至忠と爲せし所、又以て諸子を律するに足るべし。

何をか至信と云ふ。

天行信にして、歲月成り、地行信にして、五穀實る。民信にして、國家安く、衆信にして、社會穩かなり。賢者は信を基として功を成し、小人は榮達を求めて信を毀ふ。而も榮達成らずして、國家を蠱毒す。智あり、信ある者は、大事を託するに足るべく、信あり、智及ばざる

者尙用ふべし。智ありて信なき者は、豺狼に喩ふ。豺狼は近づくべからざるなり。諸子が將に入られむとする實業界は、今や有史以來未曾有の活氣を呈し、其前途光輝燦然たり。諸子の未來は多幸多望なり。

多幸多望なる未來を有する諸子は、心密に大なる成功を期するならん。予も亦諸子の成功を切に祈る。諸子記せよ、成功の要素は至忠至信に在ることを。

予嘗て諸子に告げて曰く、諺に大功不顧細瑾とは、是れ非常時に於て大事の前に小事に拘泥するの非を言ひしなり。然れども諸子常時に在りては、寧ろ大功は細瑾に敗ると心得、小心翼翼自ら一日を慎み、始を善くして終を全うせんことを思ふべしと。萬里の長堤、蟻穴に壞れ、九仞の功一簣に缺くることあり。諸子警戒せよ。人として自愛せざる者なく、然も眞に自愛の手段方法を採る者誠に稀なり。智識の發展を希ふも、研學を好まず、品性の向上を希ふも、素行治らず、身体を健康を希ふも、攝養可ならず、是れ情に於て自己を愛し、理に於て自己を憎む者。否理に於て自己を愛し、實行に於て自己を殺す者と謂ふべし。此の如きは、自己に對する不忠不信の極なり。諸子成功を冀ふか、先づ自己に至忠至信なれ。實行上より眞の自愛者たれ。蓋し成功は眞の自愛者のみによ

りて遂行せられ得ればなり。諸子が本校に於ける學生生活は、今や既に終を告げたり。刻一刻諸子が校門を去らんとするの時迫れり。諸子が本日校門を辭するの時は、永へに母校に訣別し同窓の友四散するの時なり。諸子、此訣別に際し母校訓育の恩に應へんことを期せよ。諸子の父母は諸子の身體的誕生を與へ、諸子を養育して成長せしめたり。本校は諸子を教養して諸子に智能的誕生を與へたり。身體髮膚受之父母、不敢毀傷、孝之始也。永く本校教養の趣旨を體し、至忠至信、己を護り、職に盡し、立身行道、國を富まし、社會を利し、揚名於後世、以顯父母、而して母校の名聲を輝かすは、孝の終にして、又最も能く母校の恩に答ふる所以なりと知るべし。

告 辭 (電 文) 其 五

諸子の光榮ある前途を祝す。身を修め行を慎み業務に勵精し、以て母校教養の恩に酬へんことを期せよ。

(文簡なりと雖も其意深し、諸子其意を記憶せよ。)

尙諸子は本日を以て將に校門を辭せんとす。其向ふ所は各異なるべしと雖も、大多數は實業界に其身を委ねんとするものにて、爰に人世の新なる一の階段に入るものなり。換言すれば學界より實地社會に移ることにて、而かも其入らんとするや、世界を通じ殊に我國に於て内外の情勢が空前の時局に際會せんとするの時なり。之れ諸子が小にしては自己、大にしては邦家の爲め、重大なる意味を有するものなることを自覺せざるべからず。此自覺に對し諸子の處すべき信條は、既に諸子が熟知し實行しつゝあることを確信する本校生徒心得の五大綱領なり。こは生徒として心得べき箇條とのみ思考すべからずして、實社會に在りて一層遵守實行せば、其身を立つることを得る所以にして、斯くて同時に本校教養の趣旨を徹底せしむることを得るなり。

尙校長は諸子卒業に際し文行の二字を送別とせらる。此語は孔子一代の教とせられし文行忠信の文行に出づ。文とは學にして道なり。行とは道を行ふなり。諸子、此意義淺からざる送辭を體して以て成功を期すべし。

諸子の成功は、今後幾百幾千の後進者の運命を左右し、本校の名聲に係はる。諸子が本校を卒業せる履歴は、諸子終生の歴史なり。而して諸子と共に本校の歴史は續き、諸子が將來光輝ある歴史を作らば是又本校の歴史を飾るものなり。諸子、夫れ忘るゝ勿れ、本校は諸子を國家的人才として教養し社會に送るものなることを。

大正七年第五回卒業證書授與式の際には公務上京歸途青函聯絡船濃霧の爲に津輕海峽に漂留上陸し能はざりし爲に卒業式の間合はず、由りて告辭を函館より電送せり。

告 辭 其 六

本日第六回卒業證書授與式を舉行するに當り、朝野來賓各位の臨場を辱うす。本校の光榮何ぞ之に加へん。

卒業生諸子諸子は、在學三年螢雪の功成り、今卒業證書を受けたり。予は衷心諸子の成業を祝す。光陰矢の如く、流水止まらず、昨に諸子を迎へて教養の任重きを知り、未だ其責の全きを覚えざるに、今や既に諸子を送るの秋來れり。

歲月何ぞ人生を追ふに急なる。此校主宰の任に在る予は、維時感慨措く能はず、又轉々惜別の情に堪へざるなり。予は第五回卒業生に贈るに文行の二字を以てし、又大富は天より來り小富は勤勉に出づと告げたり。而して諸子に饒するに忠信の二字を以てす。蓋し忠信は文行の要道にして、而も業を成し功を修めんと欲する者の須臾も閑却し能はざる所のことたればなり。

孔子一代の教は文行忠信の四字に在りと。曰く、文は學なり道を學ぶの謂なり、行は實行なり道を行ふの謂なり、忠は眞心にして信は誠なり。即ち文を學び文を行ふに至忠

至信なるべきを云ふなり。諸子は在學三年文を學べり、今社會に出て、將に文を行はんとす。諸子は文を學ぶに、忠なりしか、信なりしか、又正に文を行ふに當り、能く忠なり信なるを要す。孔子の所謂文は王者の道なり、諸子が學びし文は商者の道なり、王者の道は治國平天下の道にして、商者の道は富國利民の道なり。諸子は富國利民の道を學び、今や將に之を行はんとするの時、到れり。是特に予が忠信の二字を諸子に贈りたる所以なり。

孔孟は春秋戰國時代に生れたり。時に諸侯干戈を執りて王霸を競ふ。而も王霸の道を知るものなく行ふ者なし。王霸の道を知らず行はずして王霸を競ふは、猶木に據りて魚を求むるが如しと孟子は歎ぜり。

今回の歐洲戰亂は之を春秋戰國に喩へて可なり。全地球をして干戈の春秋戰國たらしめしと共に、又實に經濟上の春秋戰國たらしめたり。干戈の春秋戰國は歲月四ヶ年有半、今正に終熄に近づけり。而も經濟上の春秋戰國は永く持續して熾烈益々其度を加ふべし。今諸子は將に此經濟上の春秋戰國に投ぜんとす。商者の道は諸子既に之を學べり、諸子よく之を行うて成功致富の大業を成せ。

大なる富は天より來り小なる富は勤勉に出づ。諸子大富を欲するか先づ勤勉に由りて小富を成せ。蓋し小富を成したりとて天必ずしも大富を下すにあらざるも、小富を成さざるものに天未だ嘗て大富を下したることなければなり。

世上成金の語あり、或は嘲笑的に或は美望的に使用せらる。解する者曰く、彼學才なく能力なく資力なく然も風雲に乗じて僥倖を得たる幸運兒なりと。予は見解を異にす。成功は天に在り、事を謀るは人に在り、事を謀る能なき者に天未だ嘗て功を成さしめず。成金は天の時と地の利とを察し能く事を謀り依て大功を收めたる者なり。

諸子棋道を知るか、棋道に於て總軍中最も其力の微弱なるは兵なり。右せんと欲して右する能はず、左せんと欲して左する能はず、四方四維の中彼には前進の自由あるのみ、然も前面敵兵あるときは進退維れ谷まる。此の如き微弱なる兵も、能く事を謀り一進一進其身を全うし、一度敵地に侵入せは直に金將となる。銀桂香皆敵地に侵入すれば金將となるも、兵の金將は成金の司なり。兵の一進一進は勤勞を意味す、小富を積むに喩ふべし。敵地侵入は機會を意味す、天の大富を下すに喩ふべし。天に私なし、諸子忠信の二字を忘れず、勤勉にして能く小富を積み其機會の至るを待たんか、天曷んぞ諸

子に大富を下すの機会を與ふることを惜しまんや。

成功は天に在り、事を謀るは人に在り。成敗は時の運に由ることあるも、未だ嘗て愚者にして事を謀るの智なく、事を行ふの勇なきものが、成功したるを聞かざるなり。

黄金は地下に在りて、智ありて之を知り、勇ありて之を掘る者必ず之を得。諸子成功を欲するか、先づ事を謀るの智を練磨せよ。大富を欲するか、先づ小富を積みよ。

諸子富を欲するは可なり、然れども財を貪る勿れ。財を貪る者は富を得ずして身を危うす。諸子酒色に親む勿れ、夏桀殷紂は之によりて天下を失ひ、身を亡し、宗族を滅せり。

諸子浮華に流る、勿れ、浮華に流れて落魄せざる者稀なり。諸子自己の名聲を重ぜよ、品性の向上を計れ。

諸子、國憲を重んじ、國法に遵ひ、一旦緩急あれば、義勇公に奉ずべし。是れ明治天皇の勅諭なり。露國國民現時の慘狀は、予をして轉々聖旨の宏遠なるに感泣せしむ。

諸子校門を辭して社會に出るの後、本校教養の趣旨を普く社會に告げよ。曰く、本校が教養したるの士は、商者の道を學び、之を行ふに至忠至信の士なり、勤勉にして事を謀るの智と勇とを備ふるの士なりと。然れども予が告げよとは、口を以て告ぐるにあら

ずして行を以て告げよとなり。天不言而人推高焉、地不言而人推厚焉、四時不言而人與期、諸子の行動は一舉一動、本校教養の趣旨を社會に告白すべし。

諺に曰く、流盡則源盡、條落則根枯と、諸子の功敗は即ち本校の盛衰なり。

諸子母校教養の恩を知るか、之に答ふるの道他なし。自己の行動を慎み、立身榮達の方法を講ずるにあり。

諸子が校門を辭し、同窓四散の時迫れり、行けよ諸子、綠ヶ丘に巍々として屹立する所の本校は、諸子教養の母なり、永へに諸子の功敗を憂ふと知るべし。

告 辭 其 七

卒業生諸子、予は光榮ある此式場に於て、諸子に卒業證書を與へたり。

諸子が在學三年、教養を受けたる母校に訣別し、朝に夕に親しみし同窓の友が、將に四散せんとするの時、到れり。維時諸子の感慨如何。將に旅立たんとするの子は、勇み、之を送り出さんとするの母は、悲む。今諸子は前途の希望に輝き、予は諸子の功敗を憂ふ。諸子の前途は、我校庭に立ちて渺茫たる大洋を眺むるに似たり。或は祝すべし、或は憂ふべし。其洋々として際涯なきの様は、天將に大なる成功を汝に齎さんとするに似たり。然れども幾多の暗礁の前途に横はるなきか、狂波怒濤の襲來なきか。冀くは諸子、不撓不屈堅忍不拔の精神を以て、今の輝きたる希望を實現し、予をして杞憂を抱きしとの笑を招かしめよ。

同一家庭に育ちし子女兄弟姉妹は平等の待遇を受く。然も成長後の功敗各々別なり。諸子が在學三年、母校教養の恩は均しく諸子に及べり。而かも社會に立つの日、諸子の功敗は同じからざるべし。

諸子幸にして成功得意の時到るとも、驕奢浮華に流るゝ勿れ。驕奢浮華は身を亡ぼし社會を蠱毒するの虞あり。

諸子不幸失敗失意の日來るとも、消沈落膽する勿れ。七度倒るゝも可なり、八度目に起れば最後の勝利者たり。戦ふ毎に捷ちし項羽は、最後の戦に身を滅ぼせり、彼れ驕りしが故なり。敗北に敗北を重ねし高祖は、最後の戦に家を興せり、彼れ努めて捷まざりしが故なり。高祖を學ぶべきか、項羽を學ぶべきか。

諸子、在學三年、此間予は諸子を遇するに少年紳士を以てせり。是れ諸子が已に紳士の資格を具備せしが故に、ならずして諸子をして、將に紳士の資格を具備せんことを努力せしめんが爲なりき。其實なくして其名あるは耻なり、其品性低うして其位高きは卑むべし。諸子、在學三年、少年紳士の待遇に耻づることなかりしか。

今諸子が將に入らんとする所の實業界は、人材を要すること甚だ急なり。

故に諸子は、過分の報酬と待遇とを以て迎へらるゝ。諸子の責務は、諸子が受くる所の報酬と待遇とに、耻づるなきを期するに在り。實績を擧げて其報酬の過分にあらざることを證明するに在り。驚馬に費す一金は無益なれども、駿馬の爲めには、萬金も惜し

からざることを期せよ。諸子が歓迎せられ厚遇せらるゝは、人材たることを豫期せらるゝに由る。御布施は坊主なるが故に之を與ふるにあらずして、讀經の勞に酬いんが爲なり。諸子を聘する所の會社銀行は、諸子を扶持せんが爲に諸子に報酬を與ふるにあらずして、諸子の業績に酬いんが爲に諸子に報酬を與ふるなり。諸子、報酬の少きを憤る勿れ、先づ己の能力の及ばざるを憂へよ。

予は諸子に饒するに、本校に於て鍛へ上げたる大小一口を以てし、平和の劍と銘せり。平和の劍とは、澁澤翁の所謂算盤と論語是なり。此兩刀は、順逆何れの境に在るも、能く諸子が身を護り、諸子を成功の域に導くべし。

茲に謂ふ所の算盤とは、二一天作の五を云ふにあらずして、諸子が在學三年、學びし所の學術技能に由りて、練磨せられたる商才を云ふ。論語とは、子曰くを云ふにあらずして、人道の大本、大和民族獨特の武士道、小學已來陶冶を重ねたる諸徳具備の士魂を云ふなり。

故に平和の劍とは、又士魂商才の二刀なりと心得て可なり。

能く富を集め、能く富を散ずるは商家の道なり。能く富を集むれば國豊に、能く富を散

ずれば民幸なり。然れども商才なくして能く富を集むるは難く、士魂なくして能く富を散ずるは尙ほ難し。故に曰く、論語と算盤とは、國利民福の寶刀なり。

舟航之絶海也、必假棹楫之功、鴻鵠之凌雲也、必因羽翹之用。諸子の世に處するや、必ず平和の劔の資に藉らざるべからず。而して其平和の劔は、本校が三年陶冶の曉に一度授與する所の寶刀なり。

諸子に訣別するに際し、予が最も憂ふる所の者は、諸子の精神の健康之なり。肉體の健康は人皆之を謂ふ。而かも精神の健康は之を顧みる者甚だ多からず。肉體の病は肉體を傷ふに過ぎざるも、精神の病は小にして尙身を傷ひ、大なれば社會國家を傷ふ。

諸子社會に出るの日、設ふこと勿れ、巧言令色の徒は國の蝨賊なり。

諸子、富まんと欲するか、可なり。然れども財を貪ること勿れ。財を貪る者或は唯金を蓄めるか、知れぬが、天決して彼に大なる富を與へず。能守廉靜者、致富之道也。富財不如義多、高位不如德尊と思へ。

諸子、慾と情とを節せよ。慾情を肆にすれば、禍敗忽ち汝に及ぶ。禍福門なく、皆汝の招くが儘なり。

「人の一生は重荷を負うて遠き道を行くが如し。いそぐべからず。不自由を常と思へば不足なし。心に望起らば困窮したる時を思ひ出すべし。堪忍は無事長久の基。いかりは敵と思へ。勝つことばかり知りて、まくる事を知らざれば、害其の身に至る。おのれを責めて人をせむるな。及ばざるは過ぎたるよりまされり。」是れ、家康の遺訓にして、徳川十五代の太平之に基く。諸子の座銘として可なり。

諸子、校門を出るの時、母校教養の恩を謝して去れ。感恩は人の人たる第一義なり。去れ、諸子、本校が授與したる平和の劔は、綠ヶ丘學園の光を放ち、永へに諸子の身を護るべし。

四、名古屋高等商業學校開校五周年式に於ける式辭

式 辭

本日本校開校五周年記念式を舉行するに當り、朝野來賓各位の御臨場を辱うしたるは、本校の永く光榮とする所であります。

本校は大正十年五月一日開學し、大正十二年八月豫定工事竣成したるに由り、同年秋季に開校式舉行の筈なりしに、九月一日に關東大震災ありし爲に開校式は無期延期致すことになりました。

本校の創立に就きましては本縣並に本市より多額の創立費を寄付せられたるに由る次第でありますから、校舍完成の上は開校式を舉行して其旨を御報告申上げて感謝の微意を致すべき筈でありましたが、前申上げたる事情で開校式を舉行致し兼ねたるに由り、本五周年記念式を擧ぐるに當り、校舍落成の報告を兼ね、本校創立に際し多大の同情を寄せられたる縣市民に爰に敬意を表し、感謝の辭を呈する次第であります。

本校の工事着手は大正八年即ち物價騰貴の頂點に達したる年でありますし、それ

に本校は原内閣時代の高等教育機関擴張計畫に先つて創立が確定せられた故に、高等教育機関擴張に伴ふ豊富なる豫算に均霑することが出来ず、それが爲に、創立費の不足を感じ、幾度も幾度も豫算超過入札不調の爲に、工事に着手することが出来ませんでした。夫れにも拘はらず、豫定の工事を豫定期間内に竣成致し得たは、文部當局の努力と相待つて皆様方の御後援の賜と存じ厚く御禮申上ぐる次第であります。本校は大正十三年に第一回卒業生を送り出し、本年三月には第三回卒業生を送り出しました。大正九年以後本邦經濟界が逐年逆運となり、大正十三年は前年の大震災火災の後を受けて實に悲境のドン底に達せしと思はれましたが、爾來今日に到るも尙ほ財界の轉換期に到達致しません。偶々かゝる季節に三回までの卒業生五百數十名を送り出した譯でありましたが、幸にも夫れ々々、適才適職に就かしめて一人の餘す所なからしめたと云ふことは、内は職員一同の勤勉努力に由り、外は今日御臨場の各位を始めとし各方面の厚き御同情の賜たるは申すまでもなく、同時に我中京大名古屋市の背景の偉大さを物語るものであります。

本校の生徒定員は四百五十名であります。土地の状況並に入學志願者の數に鑑み

六百名を收容して居ります。それに大正十三年に縣市の贊同を得て新に研究科として商工經營科を設置致しまして、農工商の高等専門學校の卒業者を收容して一ヶ年間商工經營に必要な學科目を教授研究指導致して居ります。定員は五十名であります。設備の都合上本年は二十五名を收容して居ります。

本校教養の趣旨に就きましては各位に御披露申上ぐべき程の特色がありません。強ひて申上げれば本校に於ては出来る丈規則を制定しないと云ふ方針であります。規則を拵へて之に由りて萬事を處理するは至つて樂ではありませんが、又一面規則に因はれて適切なる處置を爲し難き場合が往々起り得るものであります。教育は個性の特異を尊重せねばならぬに共通的の規則で束縛するは好ましからぬと思つて、出来る丈規則を制定しない譯であります。

生徒入學の際に本校の方針として二ヶの信條を提示致します。一、學生は學生らしくあれ。二、學生としての存在を自覺せよ。學生らしくあれとは先づ第一に髪の刈り方着物の着方言語動作共に學生にふさはしかれとの意義である。其結論として本校では

五分刈り頭が學生にふさはしいと云ふことになりました。學生としての存在を自識せよとは、本校入學の目的を忘るゝなどの意義に外ならぬ。其結論としては病氣其他不可抗力の場合を除くの外には決して授業に缺席せぬと云ふことであります。これは規則でも命令でもありません。學生一同の自由意志の發露と御認め願ひます。此二ヶの信條が卒業の際には、一、在學中五分刈頭をして居つたことを忘るゝな、二、在學中缺席しなかつたと云ふことを忘るゝなどの送別の辭となるのである。それは會社員、銀行員となれば、其會社其銀行の行風あり社風がある、之に適應せねばならぬ。其會社員らしく其銀行員らしくあらねばならぬ。又學生としての本分が缺席しないと云ふことにあるならば、銀行員會社員としての本分も其處にあるのである。人はパンの爲に職業に就くのではなく、人は職業に生き職業に死すべきである、と云ひ聞かせます。

本校將來の發展に關しては、我中京大名古屋市の發展にふさはしき發展をなしたいと心掛けて居ります。旭日昇天の我大日本帝國の高等專門教育機關として恥づかしからぬ發展を爲したき覺悟で居ります。夫れには我等が眞心籠めて奮闘するならば、

縣市民各位から金錢借しまぬ後援あるものと信じて居ります。

本校は中京に只一つの高等商業教育機關であるに、それが微弱にして水平線にすらも達することが出来ないとしたならば、それこそ大名古屋市民の自尊心を疵付けること大なるものでありますまいか。

我邦の教育制度では高等教育機關としては大學と專門學校とが存するのである。大學は學理及應用を攻究し、專門學校は學術技能を教授する所で、共に國家の最高學府である。大學は理論を主として應用に及び、專門學校は實際を主として理論に及ぶのである。故に兩者其職能を異にし其間何等逕庭のあるべき筈はなく、兩者相俟つて國家最高教育を全うする次第である。

回顧すれば、大正八年に全國の專門學校が總立ちとなつて昇格運動を起し、丸て蜂の巣をつゝいた如き有様であつた。其際我輩は小樽高等商業學校長であつたが、時の文部當局者に進言した。

大學と專門學校とは職能を異にして居つて甲乙を是非すべきものでない。然るに專門學校が大學に看板の塗り替をするると云ふことは昇格にあらずして變格である。然

るに文部當局御自身が昇格なき云ふ言葉を御使用になるから、右様の騒動が起きるのである。夫れは文部當局御自身が、大學は高級で専門學校は低級のものとして、大學は學生と云ふべし、専門學校は生徒と云ふべし、大學卒業生には肩書を認めるが、専門學校卒業生には其必要を認めない、大學の校舎は坪當り四百圓の煉瓦造り、専門學校は坪當り二百圓の木造、大學教授は勅任官、専門學校は奏任官、大學教授には車に乗る餘裕を與へる必要があるが、専門學校教官は雨風の日でもテクテク歩いて事足りると云ふ様な差別待遇がしてある。政府の差別待遇は社會に反映するから、社會も亦差別待遇をする。之れが今日の昇格運動を惹き起したのである。先づ差別待遇を撤廢して昇格と云ふ文字の使用御禁止になるならば、我々學校長に昇格運動をさしてはならぬなきの御内訓なくとも、かゝる運動は自然消滅致します。私自身は専門學校は國家教育最高機關として、大學と並進すべきものと信じて居りますから、御内訓なくとも、變格運動は致しませぬが、去りとてイツまでたつても、専門學校は低級のものである。差別待遇は除き去ることは出来ない。之れが國家並に社會の本旨であると知る時は、不本意乍ら陣太鼓をたゝいて津輕海峽を渡らねはなりません。

斯く申しました。之れが我輩の其時の考でありましたが、今とて變りはありません。専門學校が今日の我産業振興には重大なる貢獻をなすべきである。我校をして専門學校中の専門學校たらしめて、専門學校としての誠の職能を發揮せしめたいとの希望に我輩は輝いて居るのであります。さりとて何時我輩が陣太鼓をたゝいて箱根峠を越ゆる時が来るかも知れませぬ。それは好んでなす譯ではありませぬ。誠に止むを得ざるの時であります。

本校教授科目の編成に就いては、先輩諸學校に負ふ所少くありません。たゞ先輩諸學校に於て全然教授せざるか、或はさして重きを置かれざる學科目にして、本校に於て相當成績を挙げんと期待しつゝ、あるものに、左の諸科目があります。

一、商業實踐　　二、商品實驗　　三、商工心理　　四、能率研究　　五、産業研究

商業實踐は擬營實踐の方法に由り、銀行、保險、倉庫運送等の商業機關を設け、賣買を文字通りに實習せしめて居ります。目的は講堂に於て授けられたる商業諸科目を實際に應用練習せしめん爲であります。元來商業諸科目はそれぞれ幾多の専門に分れて居りますが、相互間の關係は有機的なりと云うて、差支ない程密接でありまして、講堂

に於ける教授丈では諸科目の知識を頭腦に蓄積し得ても相互間の關係を統一的に直覺し難いのであります。然るに商業實踐室に於ける取引實踐に由り諸科目の要旨を一枚の數字表に顯はすことに由りて、此目的が達せられると信ずる次第であります。

嘗てロンドン市セントポールスクールの校長が我校では修身はフートボールグラウンドに於て授けると申しましたが、本校に於ては商業實踐室に於て商業道德の要旨を會得せしめたいと存じて居ります。一銀行員の手落、一運送會社の怠慢、一倉庫會社の無責任、一商店の不渡手形、之れ等が如何なる波紋を全關係者に及ぼすかは口で教へられなくても實踐に由りて自から理解するのであります。

商品實驗も亦小樽以來實施し來りましたが、其直接目的は製造及取扱の方法、品位鑑定等にありませぬ。又間接には農工商の連絡を圓滿ならしめ、企業經營に便利を得せしめんとするのであります。或る來賓を實驗室に案内したらば、「ホー此處では化學を教へて居る、高商に化學がドーして必要でありますか、ホー博物も教へて居る何の必要がありますか」と尋ねられて、甚だ恐縮しましたが、本校では化學も博物も教へて居

りませぬ。商品の實驗を爲さしめて居るのであります。それがドーして必要かと尋ねられるれば、商人は商品なくて算盤丈では商買は出來ませぬと御答する外ありませぬ。商工心理は適性検査と能率増進とを主たる目的と致して、最近に打ち立てました科目であります。元來經濟の主體は人であるべき筈なるに、今までの經濟學者は資本のことのみを研究して人のことは哲學者の解剖のまゝに任して置きました。然るに哲學者はまた資本嫌で、金錢から人を切り離して架空的に人をおもちやにして居りました。然るに前世紀にフエヒナーが物理の法則を心理に應用して以來實驗心理が現れ、それが今日の商工心理の基となりまして、それが歐米の産業界に適用せられ出したは歐洲大戰以後のことであります。

歐洲大戰に米國は三百萬の壯丁を動員し佛國に二百萬人を送り出したが、さて彼等の分課に困つたのである。何人を歩兵に砲兵に工兵にして然るべきやに困りはて、米國諸大學の實驗心理の諸教授を佛國に送り心理的實驗に由りて兵卒の種類分けをした。然るにそれが非常に好成績であつた爲に、それ以來米國諸會社で使用人採用に商工心理が適用せられるやうになりました。

我輩は期待して居ります、近き將來には松坂屋の入口に我校の卒業生が巧なる心理機械をすえ付け、御客がドアをあけると、「ア此御客さんは婚禮の調度に入らしたのである、三階の御祝儀調度室に御案内……ア此御客さんは今晚の來客に食糧品購入に入らしつた、地下室に御案内……」と云ふ時が、近い内に來ると信じて疑ひませぬ。近いと云うても百年後かも知れませぬ。

本校では能率研究の爲活版工場を設けました。今までは物置の中で徒弟の養成にとめて居りましたが、漸く工場が二三日前に竣工したやうのことで、今までには何等成績を擧げて居りませぬ。只本日記念品として贈呈すべき商業經濟論叢が此工場ですり上つたものであります。

又最近に産業調査室を設けました。之れは主としてハーバート大學のケースメソッドが如何なる程度まで我邦商業教育に適用せられ得べきやを調査したのであります。現今大學並に専門學校に於て授けて居る商業科目は數多けれども、殆んど總べてが商業機關學であつて商業自體の學問がないのである。幸にケースメソッドの研究に由り適切なる賣買學市場學が成立するならば多幸ならんと信じて居ります。

又本校ではタイプライターを課して居りますが、之はタイピストたらしめんの目的でなく、之に結び付けられたるコーレスボンデンスが主たる目的であります。

又簿記と商業算術と珠算とを結び付けたる授業を、昨年來試に實施して居ります。以上申上げたる概略に由り、如何に本校が専門學校としての存在に意義あらしめんとて努力しつゝあるかを、略々御了解下さつた事と信じます。

甚だ冗辯を費して清聴を煩はして恐縮に存じます。

五、名古屋高等商業學校卒業式に於ける告辭

告 辭 其 一

諸子を本校に迎へ、教養の任の重且大なるを自識せしは、昨今のことなるかのやう感ぜらるゝに、歲月流水の如く、既に三年の星霜を経過し、今や諸子を送るの時到来。開學匆々のことゝて、教養の任盡さざる所多く、自ら顧みれば恥づる所少からず。然も諸子は勤勉螢雪の功を積み、今日卒業證書を受くるの光榮を負ふ。諸子が今受けたる證書は、本校が諸子に授け得る最高の然も頭初の月桂冠である。予は此に諸子の成功を慶賀し、諸子の前途を祝福する。

日々相見え相語り同窓にいつくしみし諸子が、今や母校の校門を辭し四散するの時來れりと思ふにつけ、予は感慨無量、轉々惜別の情に堪へぬ。予の今の心情は遠方に旅立つ我子の門出を送る母親が、「暑さ寒さに氣をつけよ、冷水呑むな、寝冷えすな、大食するな、喧嘩すな」と、盡きせぬ名残を惜むに異ならぬ。諸子、予は維時千言萬語を費すも今の我が思ひを諸子に語り盡し能はぬ。

諸子、予は諸子に座銘として「智與徳の三字を贈つた。澁澤子爵に嘗て「論語と算盤」なる

著書がある。今の産業時代の商道は、封建時代の武士道其ものたらざるべからず。士魂と商才、論語と算盤との並進即ち商道なりとの趣旨である。予が諸子に智興徳との三字を贈りしも此義に外ならぬ。武士の劍は正義の爲に戦ふに由りてのみ尊く、背徳の算盤は商道の敵である。諸子、善き商人たらんと欲するか、先づ善き人となれ、善き人にして始めて善く商ふことを得と知れ。

諸子は在學三年、商業經濟に關する知識豊富なりと信ずるか、諸子誤れり。商業經濟の實社會は廣大なり、諸子が本校に於て得たる知識は、實社會のそれに比すれば大海より汲み取りたる一滴の水に異ならぬ。本校の卒業證書は實社會への入門許可證と心得就職の當初より、謙讓の禮を以て一日の長あるものに師事し、日々學んで忘るな。世人職業をパンの方便と心得報酬の爲に働くと思ふもの多し、諸子誤る勿れ。職業は人生の目的なり。人は適職に就き能く働くことに由りてのみ、よく輝きよく生くることを得る。天國も極樂も己れが日々向ふ所のデスクの上と帳簿の中に在りと知れ。我名古屋市は東海的首都、由來中京の名がある。名のみならずして中京の實を擧ぐるも遠きにあらずと信ず。諸子は中京劍ヶ丘に大正十年開かれしマーキュリーの園

に生れた長子である。

足利の末葉、應仁年間天下麻の如く亂れ、生黎塗炭の苦を受く。此時救世の大任を完うせし三偉人は、何れも尾三の平野に生れた。信長の果斷能く天下平定の端緒を開き、秀吉の材略能く天下を鎮定し、家康の忍耐能く天下を太平たらしめた。

我邦經濟界の現状は、封建時代の春秋戰國に比すべく、大才の輩出を要望すること切實である。封建時代の亂世に、大偉才太閤を生みたる我名古屋市は、又今の産業時代の亂世に、經濟的太閤を生み出すべき可能性多しと予は信ず。由來、名古屋の名物は金の鯨鋒と豊太閤とである。既に鋒の太閤を出したる我名古屋市は、又金の太閤を出すべき瑞相を有するにあらざるなきか。

諸子、金の豊太閤たらんと欲するか、予は諸子に其秘傳を授けん。

秀吉信長に仕へて先づ信長の草履を取る。草履取として成功したる彼は足輕となり、足輕として成功したる彼は羽柴筑前守となり、遂に關白太政大臣太閤となつたのである。諸子が金の太閤たらんと欲せんには、先づ丁稚小僧として成功し、次いで手代として成功し、次いで番頭として成功せねばならぬ。秀吉が痲高き信長の氣質を呑み込

み、深夜草履を懐にし、聲に應じて、イツモ暖かき草履を信長に穿かした、諸子、其呼吸を忘るゝな、鉾の太閤を造りし方法は、取りも直さず金の太閤を造るの方法である。羽柴筑前守としての秀吉は、柴田勝家の肩をたゞ、き腰をもんだ。出来る堪忍誰れもする、ならぬ勘忍するが、勘忍、勘忍の二字は、徳川十五代三百年の泰平の基である。鉾の太閤たるに必要なる勘忍は、尙より多く金の太閤たるに必要である。如何なる職業に就くも、イツモ順風に帆を上げる時ばかりある譯でない。諸子順境に驕るな、逆境に撓むな。

諸子、母校を愛するか、日々夜々、我校教養の趣旨を宣傳せよ。予の所謂宣傳とは、諸子に口を以て語れと云ふにあらず、諸子の手腕、諸子の性行にて之を示せと云ふのである。口や筆で如何に諸子が、我校を讃めたりとて、世間の人は、手前味噌と笑ふに過ぎぬ。誠の宣傳は、諸子の手腕と性行に待つの外はない。我校の盛衰は、諸子の實社會に於ける功敗に由ると知れ。

告 辭 其 二

諸子を迎へしと思ひしは、束の間で、瞬くひまに、歲月は経過して、今ははや諸子を送るの時となつた。

諸子在學中は、諸子の教養上、コゝもあれかし、アゝもあらせたい、斯くせねばならぬ、斯うしてはならぬと、日々夜々、焦慮せしも、思餘つて力足らず、我校教養の理想の幾分だも實現し能はずして、今日に及んだ。幸に、我校には、熱誠眞摯なる教官各位のあるあり、又諸子は、入學當初より終始一貫、能く本校教養の趣旨に副ひ、學生たるの本分を守りしが故に、余が統率企畫の任完からざるに係はらず、校規整ひ、校風揚り、諸子の智徳は日に加はり、月に進み、遂に今日、諸子は卒業の榮冠を頂くに至つたのである。予は此に諸子の成功を喜び、諸子の前途を祝福すると共に、又諸子をして今日、あらしめた、我校教官各位の努力に對して、謝意と敬意とを表せざるを得ないのである。

諸子、諸子の中には、尙進んで學ばんとするものもあるが、其多くは、直に實社會に出て、生存競争の荒海に乗出さんとするものである。

實社會の生活は誠に苦しい、楽しみはあつても學校生活に於けるその如くに、純な、無邪氣なものではない。然し如何に苦しくとも、人間は凡べて社會生活に這入るべく運命づけられて居る。諸子は今より生活苦と戦うて最後の勝利者とならねばならぬ。諸子、最後の勝利者たらんと欲するか、先づ以て自由の人となれ。予が云ふ所の自由の人とは無規律無制裁我儘勝手の人を云ふのではない。私情私欲より自由の身となれ、口腹の奴隸となる勿れ、と云ふのである。欲情放肆の生活より自由の身となり、自由意志で規律的生活を導くにあらざれば、諸子は生活の出発點に於て、既に敗殘者となるであらう。

世には職業をパンの方便と心得る者が多い。斯る心掛けの人達は決して最後の勝利者たることは出来ない。パンの爲に働くと思ふから、己れの職業に興味も嗜好も起らずに、イヤ／＼働くやうになるのである。イヤ／＼働くから、我知らずサボルのである。人は働くが目的であると思へば、不平はない。パンは働く人には必ず附き添うて來るものである。

諸子、向上心を把持せよ。予が云ふ向上心とは、野望野心を云ふのではない。兎角、世間の人は、靴磨きが大ナポレオンを夢み、丁稚小僧が大政治家を氣取るを、「彼に向上心あり」と云ひたがるが、之は大なる間違である。予が諸子に向上心を持つてと云ふのは、「己れの職業の遂行に就て、熟練々達の向上心を持つて」と云ふのである。

諸子、修養を怠るな。世には、職務が忙しい爲に修養の暇なしとかこつものがある。之も大なる間違である。人世に最も尊ぶべき修養は、己れの職務に就ての修養こそである。左甚五郎の修養は鑿と鉋の中にあつた。百姓の修養は鋤鋤の中にあらねばならぬ。銀行家としての人格は、銀行營業に其儘顯はれるのである。商買人の論語は、算盤玉のハヂキ方に顯はれねばならぬ。デスク・ウォルクの人が、職務の餘暇に己れの職務をよき善く遂行せん爲に、其の職務に關する書籍を繙くは修養である。然しながら、小言を云ふ者がないからとて、文藝俱樂部や流行雜誌で執務時間をサボルのが、何の修養になるか。假令、それが論語孟子であつたとて、ビジネス・デスクの上では、修養とは云はれぬのである。

諸子の中には、比較的収入の多い方面に就きたるものを幸福と云ひ、其然らざるものを不幸と云ふものがあるであらうが、幸不幸は初任月給の多寡にて論ずべきもので

ない。人生の最大幸福は、適才適職と云ふことである。カライルは、「己れの天職を發見せし人は最大幸福者なり」と云ふた。兎角今の青年は、自己の能力を顧みず、収入の多い職業でありさへすれば、己れに適職なりと思ひたがる。近來かような事を耳にした。「私の會社は見込がない、私には不適當である。何となれば、向上發展の餘地がないからである。同列の會社では、半期のボーナスが何がしてある、昇給はかく／＼である。然るに我が社では、これ／＼である。斯くては望みがない。私には適せぬ、私の天職でない。」斯る青年は、三圓五圓、目先きより多き収入の職業あれば、直に轉業するであらうから、轉石苔を留めず、終生眞の天職に出遇ふことなくして終るのである。天職に出遇ひながら、天職たるを知らずして轉業するからである。誠の天の職を見出すは至難である。特に天才と云はるゝものに就て然りである。然しながら、通常人に在りては、一人一職の主義に由り、一度職に就いたなら、傍目をふらず専心努力、其職に盡すことに由りて、遂に其職を己れの天の職となし得る場合が多いのである。嘗て或最高學府を出て、銀行に入りたる或青年が、銀行業は身に適せないから、他の職業に轉じたしと云うて來た。予は彼れに答ふるに、「銀行業は不適當なりと知れる君は、又努力と奮闘とに

由り、それに適當ならしめ得る資格があるではないか」と。其青年予が言に従うて、今は推しも推されもせぬ立派なる銀行業者である。

人は素よりバンなくしては生き難い。古人も恆産なきものは恆心なしと云うた。然し乍ら、恆心あるものにのみ恆産が出来るのである。恆心あるものは必ず成功する。恆心なきものは目先きよく共遂に失敗する。

恆心ありとは、安心立命の境に住したるを云ふのである。安心立命と云は、諸子は直に宗教を聯想するであらうが、何も安心立命に神や佛が必要な譯ではない。釋迦も婆即寂光即佛と云ひ、基督も天の王國は我胸に在りと云うた。商人が算盤や大福帳を手にしたまゝ、で安心立命の出来ない道理はない。イヤ／＼ながらデスクに向うて帳簿を手にし、月給の多寡を考へ込み、サボリ氣分で居る姿は煩惱の罪人である。喜び勇んでデスクに向うて、全心を帳簿や算盤に打込んで居る姿は、悟道徹底の聖者である。

諸子、迷ふ勿れ、恆心あるの人であれ。

諸子、今や諸子がアルママータに辭訣の時到了た。此時、予の心情を何に譬へんか。予稚

き頃隣家の人が牝鶏に家鴨の卵を孵化せしめた。牝鶏は孵化したる家鴨を我子と思ひ、日々コーコーと叫びながら、非常に緊張して、雛を養護しつゝ、ある牝鶏の姿は誠にイヂラシかつた。或時附近の池の邊りて、其牝鶏の異常なる叫聲が聞えた。何事ならんと出て見れば、其牝鶏は狂亂の状態て池の周圍を飛び廻つて居る。能く能く見れば、彼女の雛鳥の總べてが、池の中に這入つて心地よさうに泳いで居るではないか……何故に牝鶏が狂亂して居るか、推するに難からぬ。

諸子、諸子は今より泳ぎ出るのである。そして諸子が泳がんとするは、小き池にあらずして、際涯なき大海である。何時狂波怒濤に襲來せらるゝ、かも知れぬ。諸子は勇しく戦はねばならぬ……諸子、今の予の心情は、家鴨を育てた牝鶏の如くに亂れ狂ひつゝ、あると知れ。

劍が丘のマーキュリーの園に育まれたる鳳雛麟兒が、今や日吉の丸に帆を上げて、熱田灣を乗り出さんとす。今日は其の首途である。目出たし、太平洋上波靜に、諸子の前途は洋々たり。

告 辭 其 三 (概 要)

諸子が本校々門を辭せんとするに際し、惜別の情に堪えず、爰に數言を費して諸子の前途の多望多幸ならむことを希ふ。

諸子、永く本校教養の趣旨を忘るゝな。

本校教養の趣旨は、諸子に修養的訓練と職業的訓練とを與ふるに在る。修養的訓練に由りて諸子の人格を完成し、國家的に社會的に完全なる人格者とし、世を裨益し、又職業的訓練に由りて諸子をして有爲の人材たらしめ、國家産業振興上の一大偉力たらしめむことを期するのである。

諸子はパンの爲めに働く人となつてはならぬ。報酬を目的として働く人となつてはならぬ。諸子は職業其ものゝ爲めに働き、之に由りて國家社會の一員として生存の義務を遂行するの人とならねばならぬ。職業は生の方便ではない、生の目的である。社會は諸子の爲めには無上の大學なり。

世に所謂大學は實大學の模型である。書物や學者の腦裏にある學問は、實學の寫眞に

過ぎない。諸子は今日まで我校で假想的學問をして來たが、今日以後は實大學に入り實學を學ぶのである。

實大學の淘汰は激烈である。

假想大學の試験は、實大學の淘汰試験に比すれば兒戯に均しい。今日までの諸子の學問には、多少の間違があつても大した反響はなくして糊塗することが出來たが、今日以後諸子が學ばんとする實學はそうは行かぬ。一つ間違へば直に反動が來るのである。今日まで疊の上の水練を學んだ諸子は、在學中のやうな心掛で大海に乗り出したら直に溺死する恐れがある。

社會生活は獨立獨行である。

今日まで諸子は校長や諸先生に手を持つたり足を持つたりして、疊の上で泳がせて貰つて來たのである。然るに今からは何人の助もからずに荒海に泳ぎ出さねばならぬ。

在學中に五分刻頭を獎勵されたり、出席缺席を八ヶましく云はれたことを忘るゝな。世の中に於ける成功と失敗とは、主としてその人の態度と心掛との二つにある。いつ

はらざる態度、學生は學生らしき態度、商人は商人らしき態度に、天心爛漫たる所が顯はれるのである。人の態度は、髮の刈り方や服装に最もよく顯はれるものである。今の世の中では、五分刻頭が最も、學生にふさはしいと信じたから、我輩は之を推奨した譯で、五分刻を好むからでなく、誠の心は學生にふさはしくあれと云ふことである。何れの會社銀行に勤めても、己れの位置にふさはしい身なり態度が必要であるといふことを忘れてはならぬ。特にハデであるとか、シヤレものであるとか、新人らしい様子なきは慎まねばならぬ。勤勉は社會に於ける凡ゆる職業生活の中軸である。雨風の日には必ず在學中出缺を八ヶ間敷云はれたことを思出せ。

汝の肩書を鼻にかけるな、人の肩書におちけるな。

大學と云ひ専門學校と云うたとて、何れも實社會から見れば假想學校に過ぎない。假想學校で學んだものが、實大學に入學して、博士じや學士じやと云うて誇るは、心あるものに笑はれる丈けのことである。假想學校の經歷如何あるに係はらず、實社會に於て一日の長あるものは諸子の先輩である。憑りて以て教を乞ふべきである。

汝の欲望に制限を置け。

人の欲望は無限に飛揚する。然るに欲望の對象は甚だしく限定されて居る。限定されたる對象界では、到底無限に飛揚する欲望を満足することは出来ぬ。欲望多ければ多いほど大なれば大なるほど、満足の機會が減ずるから、人に悩みを生ずる。之れ金持が金の爲めに悩み地位あるものが地位の爲めに悩む所以である。

身にふさはしき欲望は、我身存在の爲めにも、我身向上の爲めにも、又我身鞭撻の爲めにも必要であるけれども、ふさはしからぬ欲望を起して之を満足せんとあせるものは常に悩む。悩みに悩んだ揚句、遂に身の破滅を招致するほどの非望を抱くもの、悲哀爰にある。如何なる欲望が相當で、如何なる欲望が不相當であるかは、自己の理智に由りて分つの外はない。人の賢愚の分る、所は此にある。

理想とか向上心とか、内容不徹底な然もチヨット俗耳に高遠に響く言辭に隠れて、身分不相應の欲望を満足せんとあせるものが多い。特に新人カブレの者に多いやうである。誠に警戒すべきことである。

告 辭 其 四 (概 要)

本校は創立以來順調に發達し來り應に滿七年の學年を経過し、此に諸子は本日本校第五回卒業生として校門を送り出さるゝことになつた。諸子は在學三年間誠に純良なる學生であり、能く我校の美風を發揚馴致することに努めたが、校門を出づるの日は、活社會に於て尙一層純良なる學生であり、己が住める社會の美風を發揚馴致することに努めねばならぬ、而して諸子は必ず之を努むること、信ずる。

諸子入學の當初、我輩は諸子に二ヶの信條を示した。曰く學生は學生らしくあれ、曰く學生は學生としての本分を忘るゝな。今諸子が校門を去るに當り、此二ヶの信條は直に移して以て處世の要道として諸子に贈るの辭となすことが出来ると思はれる。諸子は某會社某銀行某商店それ〴〵適職に就くのであるが、諸子の成功と否とは諸子が其會社員其銀行員らしくあるか否か、其會社員其銀行員としての本分を忘れるか否かに由るのである。諸子、自己の運命は自己で開拓せねばならぬと知れ。

社會多數の同胞は六年の初等教育丈で社會の荒波にもまれて居るに、諸子は中等五

ケ年の教育を完了し、今又高等教育完了の月桂冠を得て、然も其九割強までは適職を授けられて、社會に出るのである。諸子は七千萬の同胞中で最も恵まれたる階級に屬するものである。然もかくも恵まれたる諸子にして成功せざらんか、諸子は敢て何人をか罪するであらうか。

諸子今より感恩の生活に這入れ、それは斯くも恵まれたる階級に屬する諸子に取つては當然のことであるからである。社會の罪惡の多くは我等が忘恩の生活に這入ることには始まるのである。父母には養育の恩あり、國家には安住安泰の恩がある。母校には教養の恩あり、社會には授職の恩がある。父母なく、國家なく、母校なく、社會なしと假定せよ。諸子の存在、諸子の教養、諸子の安泰、諸子の活動は如何あるであらうか。感恩生活をなすも忘恩生活を爲すも心の持方一つである。感恩生活をなすものは笑ひ興じて愉快に職務に盡すことが出来るが、忘恩生活を導くものはいつも人と鬭争せねばならぬ。然も正道を踏むがいま／＼しくなつて、いつの間にかやがて邪道に踏み入る恐れが數多くあるからである。諸子、世の落伍者の多くは親不幸ものであり、社會國家の不忠者であることを忘れるな。諸子よ、諸子が母校教養の恩を忘れるの時は諸子が成功

の道を踏みはずした時なりと知れ。「咽元過れば熱さを忘れる」とは忘恩性の人を誡めた諺であるが、咽元過ぎて熱さを忘れるは汝の隨意であるが、再び暑さを感じて咽元が渴いた時に誰れが汝に水を與ふるであらうか。

諸子、パンの爲に働くと思ふな。人は精神的に最善の活動をなすが本分である。パンは働かんが爲の方便物で人生の目的ではないが、多くの場合には、よりよき活動によりよきパンが附き従ふのは造化配劑の妙とても云ふべきであらう。諸子よ、汝のパンがまづかつたら、汝の働きが鈍かつたと知れ。

いかなる會社商店でも、ミンナが好く受持と、ミンナがいやがる受持とのあるものぢや。然も何れの受持でも、其會社其商店自身の存在の爲には必要缺くべからざる受持である。あつてもなくてもよい受持があるとすれば、それは其會社其商店の統帥者の罪であるからである。

ミンナがすき好む受持に廻はされたら大に警戒せよ。ミンナがすき好む受持はミンナが一生懸命でやるから、少しの落度でも目に付き易いからである。然るにミンナが嫌ふ受持に廻はされたら、汝を祝福せよ。何となれば、斯る受持は總べての受持者が、ゾ

ンザイに平凡に努めて居たのであるから、汝の精一杯の努力が必ずや衆人に認められる丈の成功をなすであらうからである。

秀吉は、汝の顔は猿に似たりとて、草履取りに取り立てられた。草履取は恐らく總べての足輕の最も好まぬ職分であつたであらうが、それ丈秀吉には信長の目に留まる丈の草履取りとしての働きが出来たのである。鷹の集りに鷹が這入つても人目につかぬ。タトへ小鷹でも雀の集りに這入れば目立つと云ふ道理を忘れるな。

寧ろ鶏口となるも牛後となるなかれと云ふ諺がある。其心は職業に尊卑はない。牛がエライとか鶏がダメとか云ふべきでない。牛が大きくてエライから牛の仲間入りをしてモチ扱ひにされんよりは、己れに適したる鶏の群に入り鶏の王様になれと云ふことである。

我輩は小樽高商創立已來今日までに十四五回の卒業生を社會に送り出したやうである。然も此間教養の方面は勿論のこと就職のことに至るまで誠意誠心今日まで盡し來つた。到らぬことは多いとしても。此頃痛切に感ずるは、年一年と鶏の頭とならんよりも牛の尻尾に附きたいと云ふものが多くなつたことである。牛の尻尾につけ

なければ驢馬の尻尾、猿の尻尾、否犬の尻尾でも、鶏の頭丈は御免蒙りたいと云ふ連中が多くなりつゝあると云ふことである。之は喜ぶべき現象でない。

我輩は諸子教養の善美を盡さんが爲に、我校職員と共に本校創立已來奮闘努力した。諸子が三ヶ年間受けたる教養は恐らく諸子が何れの學校に於て受け得たよりも、よりよき教養を受けたと我輩は信ずる。何となれば、我校の教職員は、本邦何れの高等教育機關を司つても遜色なき人々のみであると思ふからである。

我輩が小樽高商以來今日まで苦心したる他の一方面は、卒業生諸子に適職を授けたしと云ふことである。學校長は生徒教養の主体であつて職業紹介の勞を執るべきものではあるまいと云ふことを各方面から聞かされたこともあり、又歴代の文部大臣中には公然と右様申聞けられた大臣もあつた。然しながら我輩の考へは違つて居る。己れが養成したるものを、適職にハメて見なくして、さうして、自分の教養方針がよかつたかわるか、かつたか、と云ふことが分るか。適材と思ふものを適職にハメて見て、それに由りて始めて自分の教養方針の適否を自覺することが出来るのであると、之れが我輩の所信である。

我輩は小樽高商就任以來正に十八年、此間最もつらしと思ひしは卒業生就職依頼の爲に東奔西走したことである。東奔西走がづらい譯でなく、會社銀行の重役方へ面會申入れのツラサである。門前バイを食はされることなきは恐れて居られぬ。教育方針なきに就いて御小言を頂戴したことも澤山ある。何れの場合でも御無理御尤と拜聽して歸り來つた。何れの會社銀行でも社長頭取は大抵御留守であるか會議中である。理解ある所では秘書役とか人事掛とか云ふ方々が會つて下さる。會つて下さつても要領を得ぬことが多い。我輩の同僚中には憤慨するものも少くないが、我輩は未だ一度も不平に思つたことはない。それは、我輩が我校の卒業生に適職を得させたいと思ふ一念があまりに大にして、それに比すれば、我輩が就職運動の爲に行く先々で、我輩が受くる待遇が假令侮蔑的であつたとしても、それを甚だ小なりと認めねばならぬ立場に我輩があるからである。我輩の斯る立場は我輩の職務に伴ふ義務ではないが、然し我輩の信念に伴ふ結果である。我輩の感恩生活に伴ふ職務的社會奉仕である。卒業生諸子、我輩は我校諸先生と共に、諸子に適切なる教養を與へんが爲に、又諸子に適職を得せしめんが爲に、最善の努力を爲し來つた。又最大の困難をも忍ぶであらう。

諸子は果して之を諒として居るであらうか。諸子の或ものは自分がエラカッタから此冠を贏ち得たのである。又諸子の或者は校長が到らぬから我は適職を得るのであると考へて居るではあるまいか。若しそれかゝる考を起すものあれば、之れを之れ我輩が忘恩生活の第一歩と云ふのである。

卒業生諸子、諸子の前途には洋々たるものがある。我輩は我校の諸先生と共に眞心籠めて諸子の前途を祝福する。世界は互市場である。太平洋上波踊るの所、劍ヶ丘に巍然たる我校は、永へに諸子の航路を照すであらう。

商工經營科の正科卒業生並に選科修了生に對して一言する。我校の商工經營科は研究科である。歴史を案ずるに、世界の文化の進展は忘我的研究者の貢獻に由りてのみなされて居る。諸子は、在學一年は短かきに過ぐれども、年月相當の貢獻を爲したであらうか。希くばイエスと答へて欲しい。

萬里の長城は一日にはならぬ。目的大なれば大なるほぎ大器晩成である。本日諸子に與へたる卒業證書若くは修了證書は、諸子の大なる目的に比すれば、反古同然のものである。諸子が本校商工經營科に在學したる學修により、將來我產業界に大なる貢獻

を爲すの機會來らば其時こそ我輩は諸子の卒業證書に誠の裏書を爲すであらう。

告 辭 其 五 (概要)

諸子を本校に迎へたは誠に昨今のやうに思はれるに實に光陰は矢の如くマタ、クひまに三年の星霜を経過し、本日此に光榮ある卒業證書を授與し諸子を校門より送り出す時となつた。

回顧すれば諸子入學の當初より諸子の教養上、コゝもあれかしアゝもあれかし、これではならんあれではならんと、自ら誠め自ら勵ます内に、知らず／＼諸子の卒業期が参つた。只自ら慰むる所は、本校は他に類例少からんと思はる、程に教職員手揃にて、諸員和衷協調して諸子を教導し、諸子も亦罕に見らる、程の善良なる學生であつて、能く本校教養の精神を体得し、「學生らしくあれ」「學生としての本分を忘るゝな」の本校教養上の二大モットーを在學三年間寸時も忘れざりし爲に、諸子が今日受けし卒業證書は誠に光榮あるものにして、此種學校の何れに於て受け得られるそれに比して遙に大なる價值あるものと云ひ得ないとしても、何等遜色なきものと信じ得ることである。

諸子、本校が諸子の爲に舉行したる此卒業式は、諸子の社會生活の始業式である。諸子の門出の祝初めである。然も社會生活の困難は學校生活のそれに比すべくもあらぬ。誠に用心肝要である。

我輩は嘗て卒業式に於ける我輩の心情は何となく家鴨の雛を育てたる親鸞のその如くあると云うたが、卒業式毎に此心情が繰り返されるのである。イツまでも我子として膝元にあるものと思ひしに、諸子は今や水の中に躍込まんとして居る。然も其水は平なる池水にあらずして社會てふ大波小波断え間なき荒海である。心から諸子の一路平安を祈る次第である。

諸子が在學中体得したる本校の二大モットーは、又能く諸子の社會生活に移して人生航路の指針となし得るであらう。會社員は會社員らしく、銀行員は銀行員らしく、店員は店員らしく、然も亦各々其本分を忘るゝなと云ふことである。

諸子の今より後の社會生活は、三様に分れるであらう。それは經濟生活と社交生活と政治生活とである。經濟生活は諸子に勇氣を與へ、社交生活は諸子の愛をためし、政治生活は諸子の正義心を試みる。人は凡べて此三方面の生活を離れ能はぬが、さて其經

濟生活には勤勞と云ふ二字を忘れるな。勤勞とは額に汗すると云ふことである。否骨の碎けるまで働くことと云ふことである。そしてそれが人の本分である。

社交生活には人情と云ふ二字を忘るゝな。人情の第一義は親に孝行と云ふことである。次いで兄弟に友に朋友相信じ、エトセトラ。國土國君に對する忠節は言を待たぬ。然も人情の根本義をなすものは男女の貞操である。貞操は女子のみの道德と云ふものあるがそれは間違である。貞操蹂躪は民族破滅の根本原因である。

政治生活には義理と云ふ二字を忘るゝな。義理とは正義公道を行くと云ふことである。

普選が實施せられた立憲治下では、國民舉つて國政に參與するのである。或は直接に或は間接に——我等は政治生活を營まねばならぬ。然も或は國家的に或は地方的に其何れを問はず、義理の二字を辨へて正義公道を行かねばならぬ。

先頃諸子に贈りしは辛抱の二字であつた。註に曰く、なる辛抱は誰もする。ならぬ辛抱するが辛抱。

徳川家康は堪忍の二字を以て子孫を戒めた。予は彼に學んだのである。堪忍の二字は

徳川十五代の太平を來したが、辛抱の二字は諸子に無限の幸福を與へるであらうことよ。

勤勞、人情、義理を縦糸となし、辛抱の二字を横糸として、諸子の一生を織るならば、諸子は完全なる人格者である。必ずや成功の彼岸に到達するであらう。

六、昭和開元第一元旦の式辭

忠孝爲本の我國體

一日の事は朝に在り、一年の事は元旦に在る。今日は昭和と開元あつて始めての元旦である。

明治大帝の宏業を繼承し給ふた先帝陛下は、國利民福の爲に日夜宸襟を惱ませ給ふた餘り、遂に御不例に亘らせられ、我等七千萬の國民が切實に御平癒を祈願せしに、其甲斐なくして、大正十五年十二月二十五日、崩御大行されました。我等は諒闇元旦にふさはしき決意あつて然るべきであるまいか。

皇位は一日も空うすべからずとの皇室典範に由り、新帝陛下直に踐祚の式を擧げさせられ、昭和と開元し給ふた。本日は昭和開元の第一元旦である。我等國民は、擧つて昭和第一元旦にふさはしく千代八千代の君が代に、百姓昭明、萬邦協和の聖旨に答へ奉らんことを決意せざるべからずであるまいか。新帝陛下去ぬる二十八日、昭和新政の朝見式を擧げさせられ、聖慮深遠なる詔書を下し給ふて、昭和の御代の國民として我等の行くべき道、我等の守るべき教を、最も懇切に詔りし給ふてある。分けて恐懼

に堪へざるは、「晩近世態漸ク以テ推移シ思想ハ動モスレハ趣舍相異ナルアリ經濟ハ時ニ利害同シカラサルモノアリ」と仰せられた一事は、如何に陛下が我等國民が我等民族の精神文化の中心思想……大和民族存在の由來を語る所の日本道徳の根本義を失ひつゝあるに非ざるかを、軫念し給ふてあらせらるゝか、伺はれるのである。我等國民は昭和第一の元旦に際し、如何にして昭和の御代に於て、新帝陛下の宸襟を慰め奉らんかを考慮せざるべからずであるまいか。新帝陛下は、「宜シク眼ヲ國家ノ大局ニ着ケ舉國一体共存共榮ヲ之レ圖リ」と詔りし給ふた、皇室を中心としたる舉國一体共存共榮は我等大和民族の建國の理想の發露である、我等民族の精神文化の中心思想の顯現である、新帝陛下は、我等臣民に民族存在の由來を語る所の精神文化の中心思想の自覺と實現とを促し給ふたのであると、我等は恐懼する。凡そ民族の文化には、精神的方面があり物質的方面がある。然も文化の基調は、其民族存在の理由其ものであらねばならぬ。民族存在の理由が即ち建國の理想であり、之れが其民族の精神文化の中心思想となり、之より幾多幾條の精神的物質的文化が發揚するのである。然して、凡て民族の盛衰興亡は、文化進展の程度如何に由るにあらずし

て、之等精神文化と物質文化の調節如何、之等文化の流出する源泉たる民族建國の理想に對する把持力執着力如何に由るのである。希臘の衰へたも羅馬帝國の滅びたも、彼等の物質的文化爛熟の最高點に達したる時代であつた。佛蘭西革命の起りしも、ロシア革命の起りしも、何れも斯る時代である。それは、基調なき文化は、それが精神的なると物質的なるとを問はず、空中樓閣や砂地に建設せられたる家屋に比すべくあるからである。

昭和元年十二月三十日東京朝日新聞に左の記事があつた、

「ニューヨーク特派員二十七日發日本國民の 天皇陛下に對する尊敬とその熱誠なる態度とを批評してワールド紙はその論説で次の如く述べてゐる

我々から物質的幸福の進歩といふ觀念を採用したと、新しい日本が我々に御世辭を使つておだて、居るのをよく耳にするが、今度 皇帝陛下の崩御によつて眞の日本が生きてゐることを知る、變化は表面上のみに止まるのである。東京市中は先帝の喪に服して靜かなひつそりした街となり、そこには古へよりの宗教的傳統が人々の情緒的生活を支配してゐる。我々西洋人の習慣を取りいれても、更に變らない昔ながらの風習が彼等日本人の間に残つてゐる。その

譯は、人々の魂は、外國の機械やバリー好みの姿をしたからさて變るものではないからである。皇帝陛下に對する尊敬は神様に對する以上である。そして日本の傳統の強さは、官憲が腹切を禁止したこゝによつても分る。信仰もしくは熱誠がかゝる犠牲的行爲をさせるのであるから、その善惡をいふ必要はない。日本人が神聖だと思ふことは、我々の考へとは全く違つてゐる故に、うはへだけでは彼等の國民生活の變化を知ることは出来ない。」

我等の國民生活の内容を、彼等外人が知り得ぬは當然である。それは、我等の建國の理想より湧き出でたる忠孝爲本の國體は、我等民族特有のものであつて、大和民族の肉と血とを分ちたるものみに由りて得せられ得るものであるからである。

我日本帝國は、皇室を中心とし大和民族てふ一大家族に由りて組織されたる帝國である。舉國一体共存共榮は建國以來我等民族の旗印である。然るに、輓近外來の個人主義や貧富鬭争説に魅惑せられて國體を危うせんとするものあるに於ては、それこそ民族の一大事である。新帝深く此に軫念あらせ給ふたは實に懼れ多き次第である。我日本帝國に於ては、個人と國家との關係は一の大きな連鎖と其中の個々の鎖環の如きものである。尙ほより分り易く譬ふれば、一大文章と其の中に於ける言々句々の

やうなものである。言々相寄つて句をなし、句々相寄つて章をなし、章々相寄つて一大文章を爲す。一大文章なつて始めて章々句々言々の存在の意義が明になつて來るのである。言々各獨立の意義ありとて、其文章から切り離して、勝手次第に寄せ集めたならば何百何十萬集めたとして、何等價值ある意義を顯はさぬであらう。名文章の中に在つてこそ章々句々言々皆生きるのである。

我等大和民族は、建國の始より皇室を中心として國家生活を爲し來つた。即ち忠孝爲本の國體で一大文章を爲し來つたのである。我等の個々の家族は一章一句に譬ふべく、個々の個人は一語一語に譬ふべくある。個々の個人は家族の中にありてのみ存在の意義あること、一語一語が章句の中に在りてのみ最高の意義あるに異ならず、又個々の家族は、日本國てふ一大國家の中にありてのみ存在の意義あること、幾多の章句が一大文章の中にありてのみ最高の意義あるに異ならぬ。斯る國體であつてこそ、始めて舉國一体共存共榮の御趣旨が奉戴出來るのである。國家は個人の生存權を保護せん爲に、契約的に組織されたものなりて、個人萬能の見解を持つる外人が、我等帝國臣民の皇室に對する心情を理解し能はざるは無理からぬ次第である。

我日本帝國は歴史的には天孫降臨以來皇統連綿とし、神武天皇建國の式を擧げ給ふて已來二千五百八十七年に亘る一大連鎖である。今の我帝國は、皇室を中心として、七千萬の同胞が家族的團欒を爲して居る一大文章である。隣邦支那の秦漢時代には、彼等は我邦を東邦の樂土蓬萊の仙境と呼んだ。何時の時代にも、皇恩優渥なるに感泣して、人々其分を守りて感恩生活を爲す國民は、萬國廣しと雖も他に類例を見出し能はぬであらう。

教育勅語に「克ク忠ニ克ク孝ニ億兆心ヲ一ニシテ世々厥ノ美ヲ濟セルハ此レ我カ國體ノ精華ニシテ教育ノ淵源亦實ニ此ニ存ス」と仰せられた。即ち我等大和民族の國體は忠孝爲本であるとの詔りである。我等大和民族の歴史は、忠孝爲本でつながれたる一大連鎖である。我等大和民族の生活は、忠孝爲本で綴られたる一大文章である。

皇室典範第十條に、「天皇崩スルトキハ皇嗣即チ踐祚シ祖宗ノ神器ヲ承ク」とある。神器とは鏡と璽と劔の三種の神器で、踐祚の大禮は即ち三種の神器の渡御式である。神器の渡御なき爲に誠の踐祚の禮を擧げさせ給ふことが出来なかつた事例も歴史上度々あつた程に、神器の威嚴は崇高である。此の神器の威嚴のあらたかなる所に、我が

忠孝爲本の國體が生れたのである。其云はれは如何に？

古事記に由りて考照するに、天孫此土に降臨し給ふ時に當り、天照大御神三種の神器並に三柱の靈神を授けて治國安民の要道を諭し給ふたと覗はれる。

神代卷鹽土傳に

玉は溫潤仁惠の徳なり、鏡は清明正直の体なり、劔は剛利智慧の事なり、大神此三種の寶物を瓊々杵尊に授け給ふて以來、開化天皇に至るまで牀を同うし殿を共にし給ふも崇神天皇に至り漸く神威を畏れ、鏡と劔とを鑄寫し神代の靈器を別所に安置し奉る。是に於て皇居と神宮と相分れたり、今八坂瓊勾玉は皇居に在り、八咫鏡は伊勢國度會郡五十鈴河に鎮座ましまし、草薙劔は尾張國愛智郡熱田宮に鎮座まします。

神皇正統紀に

この鏡のごとくに分明なるをもちて天下に照臨したまへ、八坂瓊のひろがれるがごとく典妙をもつて天下をしらしめせ、神劔をひきさげて順はざるものを平らげ玉へ。

日本紀纂疏には鏡は妍媸を照す、則智之用なり、玉は溫潤を含む、則仁の徳なり、劔は剛利を能くす、則勇の義なりと云うて、中庸の智仁勇の三徳を三種の神器に配してある。三種の神器に寄せられたる天意は誠に意義深重なりと視ひ奉る。治國平天下の政治道徳より、家を齊ひ身を修むるの個人道徳、正心誠意格物致知の精神的訓練まで含まれて居ると視はれる。鏡は奇魂にして知をかたぎり、玉は和魂にして仁をかたぎり、劔は荒魂にして勇をかたざる、即ち三種の神器は知仁勇三徳の表徴である。之を個人生活の意義に視ふならば、劔は利の保護者であり、玉は愛の保護者であり、鏡は宜の保護者である。人生の幸福は圓滿なる生活の様式に由りてのみ得らるゝが、圓滿なる生活様式は、利と愛と宜との調和にある。利は勤勞に由りて生ずる、勤勞は不撓不屈の勇氣忍耐に由らねばならぬ、即ち劔の表相である。愛は人情に基く、即ち玉の表相である。宜とは是非曲直明白總べてに宜しきを得るの謂にして、義理分明なるを云ふ譯で、即ち鏡の表相である。圓滿幸福なる人生生活は、利と愛と宜……勤勞義理人情の調節を得たる生活なりと寓意し給ふたと視はれる。

又三種の神器に寄せられたる天意を、公生活即ち政治道徳の意義にて視ふときは、治

國平天下の要道として自由平等公平を宣り給ふたと視はれるのである。民族の自由は劔の徳に由りて保護され、玉の徳は一視同仁、誠の平等をかたぎり、鏡の徳は公平無視である。西洋の學者には、プラトンの如くに、公平を政治の理想とし、正義の國家を理想國家とするもあり、ホーブスの如くに、自由國家を理想とするもあり、又社會主義者のやうに、平等無差別を理想とするもある。然るに誠の國家は、自由平等公平の三理想が調節宜しきを得たる國家であらねばならぬ。劔の徳、玉の徳、鏡の徳、自由平等公平の三理想の圓滿調節が政治の要道なりとの天意ならんと視はれるのである。恐多きことながら、新帝陛下の下し給ふた詔書に、「國本ヲ不拔ニ培ヒ民族ヲ無疆ニ蕃クシ以テ維新ノ宏謨ヲ顯揚センコトヲ懋ムベシ」と仰せられた、又重ねて「浮華ヲ斥ケ質實ヲ尙ヒ模擬ヲ戒メ創造ヲ勗メ日進以テ會通ノ運ニ乗シ日新以テ更張ノ期ヲ啓キ」と仰せられたは、劔の徳をたゞ、へ民族の自由を強調し給ふたかに視はれる。又「人心維レ同シク民風維レ和シ汎ク一視同人ノ化ヲ宣ヘ四海同肥ノ誼ヲ敦クセンコト」と仰せられたは、玉の徳を唱へて平等の理想を強調し給ふたかに視はれる。又「博ク中外ノ史ニ徴シ審ニ得失ノ迹ニ鑒ミ進ムヤ其序ニ循ヒ新ニスルヤ其中ヲ執ル」と仰せられた

は鏡の徳を唱へさせられ、公平の理想を強調し給ふたかに現はれるのである。天意の存する所、私的生活にも、公的生活にも、倫理上にも、政治上にも、天孫斯くあれかし爾の臣民も亦斯くあらしむべしとて、三種の神器を授け給ふたと観ひ奉る。

天皇は三種の神器により天徳を具備して君臨し給ふ、臣民は君恩に沐浴して臣子の本分を守る、之を忠孝と云ふのである。忠は中心マコト、マゴコロで、口と心とを一貫したるマゴコロもて天徳に従ふを忠と云ふのである。我等臣民は、君に忠なるによりて三種の神器に表徴せられたる天徳に沐浴することを得るのである、即ち我等は忠なるに由り、個人生活の上では利愛宜の調節整ひ、知仁勇の三徳具はり、國土には自由平等公平の理想が實現せられるのである。

我等大和民族の國家の單位は個人でなくして家族である、故に我等の國家は家族の延長で、大和民族てふ一大家族の統治機關なりとも云ひ得る、又個々の家族は一家族であると同時に又一小國家なりとも云ひ得る。乃て個々の家族の家長は、忠良なる臣民として即ち君に忠なるに由りて体得したる天徳を、其家族内に實現せんことを努め、家内のものは、眞心込めて家長に協調せんことを努めねばならぬ、此眞心込めての

協調を孝と云ふのである。要するに忠と孝とは同一で、君臣の關係に於て臣として体得すれば忠であり、親子の關係に於て子として体得すれば孝である、之れが義に於て君臣たり情に於て父子たり[の御言葉ある所以である。故に忠孝爲本の國体とは、我等民族は、忠と孝とに由り、天孫降臨の由來を領得し、建國の理想に常住し、大和民族てふ一大文章の中に於ける章々句々言々の職能を全うせよとの御趣旨に外ならぬ。之れが勅語に、忠孝が國体の精華である、爾臣民俱に遵守せよ、朕も亦爾臣民と共に拳々服膺せんと仰せられた所以である。故に忠孝爲本は、彼等外人が想像するが如き、無意義の服従でもなければ、宗教的盲信でもない、彼等が獲得せんが爲に、常に狂努しながら獲得し能はざる、自由の理想も、公平の理想も、平等の理想も含まれてゐる所の、大和民族の建國の理想より湧き出でたる國体の精華である。天孫降臨以來の大和民族の精神文化の中核である。

有史以來、他の民族に於ては、血を見ずして得られたる憲法はない。然るに我邦に於ては、聖徳太子の憲法十七條は云はずもがな、何等國民の要請なきに、維新の際には五條の御誓文を下し給ふた、明治二十三年には詔書に由り帝國憲法を發布し給ふた、之れ

は、大神が三種の神器を天孫に賜ふた御趣旨の發露である。建國の理想實現の華實である。忠孝爲本の國体の賜である。

我等の國体は斯くあるに、やれ自由じやデモクラシーじや、平等じや公平じや、やれヘーゲルの理想國家よ、マルクスの平等無差別境よ、新しき村よと、新なる生活を探し廻る人達は、我等に、鳩翁道話の中に在る手に提灯を持ちながら、行燈が消えたとして火打箱を捜しまはりし八兵衛の話を思ひ出さしめる。

皆さん方、本日は昭和第一の元旦である。深夜人定つて後、靜に我國体の由來を考へ、大和民族てふ一大文章の中に在る我々は、天意の存する所を視はせて頂き、各自の本分と職能とを自覺して、以て忠孝爲本の國体に合致し、舉國一体共存共榮の聖旨を奉戴せんことを決意すべきではありませんまいか。(昭和二年元旦名古屋中央放送局放送)。

七、聖上陛下に奏上せることば

聖上陛下に奏上せることば

(昭和二年十一月十四日、名古屋高等商業學校に行幸のみぎり)

本教室は商業實踐室でありまして本校に於て授くる所の所謂商業科目を綜合統一的に應用實習せしむる場所であります。

商業實踐に就きましては二様の方式があります。一は模擬實踐で、一は同時同業法であります。同時同業法は、全生徒が同一時に同一の業務を練習する方法であります。本校では外國實踐は同時同業法に由り、内國實踐は模擬法に由り斯様な設備の下に實踐せしめて居ります。

全教室を南北兩區に分ち、通じて中央に商業機關部を置き、其中心に生産部即ち生産企業の總べてを代表するものと、消費部即ち一般消費者を代表するものとを置いてあります。此處に陳列致しましたるは、本教室に於て取引する商品の銘柄を取引者に示す爲であります。

周圍にありますは諸もろの商店であります。此れ等の商店は生産部より商品を買入れ、各種の商業機關を通じて、甲地より乙地の商店に賣り捌きて、遂に商品が一般消費

者の手に入るまでの手続を取つて居ります。

中央にある商業機關部は金融を司る銀行と、運送を司る運送會社と、商品の一時的保管を司る倉庫會社と、不時の災害に備ふる保險會社とであります。

黑板上の圖表は、生徒の理解に便ならしめん爲に、本教室に於ける商取引關係を圖解したものであります。

第二の圖表も亦、生産者と消費者との間に商品が商人の手を通して如何に動くかを生徒に示さん爲であります。

第三圖表は本校に於て授くる各學科目が知識技能德育体育と如何なる關係を持するかを生徒の參考までに教授山崎が工夫したものであります。第四圖表は流通經濟の實際を生徒に會得せしめん爲に教授山崎が工夫したものであります。

また此處に在るは本教室にて使用する各種の書式雛形であります。

本天覽所の此處にては本校の内容一般を陳列又は圖解して天覽を仰ぐ次第であります。

掲げましたる此れ等の圖表は教授郡の指導の下に生徒自ら作製したるものであります。

第二圖表は本校志願に就ててありますが、之に由りますと入學志願者は大正十一年には二千人以上、然るに最近には概して千二三百人であります。之は大正十一年以前には官立高等商業學校が僅に五校なりしに、高等教育機關増設の結果今は官立高商十三校外に朝鮮に一校臺灣に二校其他公私立を合する時は二十有餘校となり、學校分布の宜しきを得たる結果であります。

第四圖表は生徒出身府縣別であります。之に由り志願者は逐年地方的となりつつあることを知り得ます。是れ亦學校増設に由り其の分布宜しきを得たる爲と存じます。第五圖表は本校生徒の出缺狀況であります。最高九十九パーセントにして九十六パーセントと云ふ日が最多數であります。之に由り本校生徒が勤勉にして如何に陛下の忠良なる臣民たらんと勤めつつあるかが窺はれます。本年三月卒業式の際に在學三ヶ年無遅刻無缺席者を表彰致しましたが、卒業生二百三名中三十八名ありました。本校生徒等の二大信條は、第一、學生は學生らしくあること、——髪の刈り方から服

装態度に至るまで學生らしくすること、第二、學生は學生としての本分を忘れぬと云ふこと——學生としての本分は先づ學業にいそむること、それ故に不可抗力の場合の外は授業に缺席せぬと云ふことに致して居ります。

第六圖表は本校卒業生の就職状況で、商事會社商店が最も多く次いで銀行信託等の金融業であります。

之よりは本校に於ける商品實驗室よりの陳列であります。——寫眞は生徒實驗の状況であります。

實驗室へ行幸を仰ぎ度く存じましたが、恐れ多きこと故に同室に於ける最近の實驗二三を爰に天覽を仰ぐ次第であります。輒近商品實驗なる學科が汎く高等商業學校に加設されることになりました。元來商品は質と量との兩方面に於て其價格を有するものでありまして、量は算盤で計算が出来ますが、質即ち商品の品位鑑定に就きましては、従來は専ら視覺や觸覺、即ち目や手ざはりて鑑定致して居りました。然るに近來産業の殊に化學工業等の驚くべき進歩に由り、到底従來の鑑定法に由りては正確

なる判定を下し難くなりました。之れが該科の加設を見たる所以であります。

教授小原は小樽高等商業學校に於て此學科創設の始より——本邦に於ては同校が該科創設の嚆矢であります。——研鑽努力致しました。爰に同人最近の研究の一二を奏上致させます。

次は商工心理教室の陳列であります。是れ亦同教室へ行幸を仰ぐは恐れ多しと存じまして、爰に現在生徒等に實驗せしめつつある一二を天覽に供する次第であります。近來産業興國の氣運に際し適性適職能率増進の問題が矢筈しくなりました。本校に於ては教授國松が主となりて能率研究の指導をして居ります。本問題の解決に資せんが爲に商工心理學を加設致した次第であります。

爰に商工心理擔任教授古賀をして實驗の一二に就て説明奏上致させます。

八、昭和三年戌辰の春を迎へて

昭和三年戊辰の春を迎へて

(昭和三年一月四日放送)

明治維新は我等國民が永へに記念すべき一大革新期である。賴朝府を鎌倉に開いて已來、北條、足利、徳川と幕政の當事者は變はりしも、我等民族は、封建制度の下に、凡七百年間服従生活を爲すべく餘儀なくされた。然るに四圍の狀勢に鑑み、徳川幕府大政を奉還し、天皇親政の御代に復歸するを得て、明治元年と改元し給ふたは、戊辰の年であり、之を是れ明治維新と云ふのである。數へ來れば、今昭和三年は、實に明治維新より六十一年目、明治戊辰の還暦である。明治維新は、不世出の英邁に亘らせらるる。明治大帝の懿徳に由る我等民族の歴史上の一大紀元であるが、明治維新の還暦である。今昭和三年も、亦昭和維新として、我等民族の歴史を飾るべく運命付けられて居るのであるまいか。長く輿論の叫びであつた普通選挙は、本年の總選挙に於て始めて實施せられるのである。今秋十一月には、國民無上の大慶事である即位の大典を舉行せらるる御豫定である。維新此際、我等國民は、擧つて己自身を戒飭して、精神生活の上に於て、日々維新に、維新すべきではあるまいか。

明治戊辰の年に先づ慶應年間は治世産業共に擾亂の状態に在つた。治世上では尊王攘夷黨と佐幕開港黨との二分野に分れ、藩の志士國士と稱するもの、東奔西走、此處彼處に於て血の雨を降らし、産業上では、民其生計に安んずる能はず、徒らに其日其日を不安の状態て送りつつあつた。特に慶應三丁卯の年は、内治外交共に國歩艱難、實に國運危機一髪の秋であつたと、古老は我等に語り聞かせるのである。回顧すれば、今昭和戊辰に先づ大正の末年は、稍々慶應年間の國情に似通うた點があるかに感ぜられる。大正十二年の關東大震火災に次ぐに、三丹地方の震火災あり、其瘡痍は容易に癒すべくもあらぬに、治世上では政黨政派の争は益々熾烈となり、産業界では事業不振の聲絶え間なく、又各般の産業萎縮して振はず、我邦と唇齒輔車の關係に於てあらねばならぬ筈の隣邦支那の擾亂は、イツ果つびようもなく、世界大戰の禍根を急速に醸成しつつあるにあらざるなきか。斯る際に、我等國民の悲運を重ぬべく、大正十五年十月二十五日、先帝陛下崩御ましく、世は昭和と改元あり、旬日ならずして、我等は昭和二丁卯の年、諒闇の元旦を迎へたのである。第五十三帝國議會は、諒闇中であり、旁々、極めて靜謐ならんと國民は豫期せしに、血の雨こそ降らさね、蹶拳の霰は屢々議

場内に飛び、曰く松島事件、曰く三百萬圓事件、議場は騒然、國民は茫然、遂に震災手形問題に火がついて、内閣は總辭職、金融界は恐慌、銀行は取り付けられるし、商店は續々閉鎖する、行末如何あらんかと、國民舉つて心膽寒く、戰慄措く能はざりしが、新内閣の機宜の處置で、モラトリウム令が發布せられ、國民の恐慌心が、一時的に鎮靜否麻痺せられた。閉鎖の止むなきに至つた銀行は、公表されたものは三十四銀行、閉鎖の境目に在る銀行會社商店、其數果して幾千あつたであらうか、想像するだも身の毛のヨダツ程であつた。

明治戊辰に先づ慶應三丁卯の年には、天下騒然、庶民其趨く所を知らざりしと、古老は語る。諸君、今昭和三年戊辰に先づ昨丁卯の年の天下の形勢は如何ありしぞ。政界は大政黨に分野して相互に逆鱗を漕ぎ、金融界は亂れて麻の如く、工業都市の烟突は徒らに缺損の煙を吹き、農村の民には菜色あり、然も都市には勞働爭議、農村には小作爭議、政治家は我黨の爲にのみ氣焰を吐き、實業家は我利の爲にのみ狂奔する。資産なきものは公平を叫び、資産あるものは無秩序を罵る。之れが是、昭和二年丁卯の有様であつた。重ねて諸君に借問す、昭和戊辰に先づ丁卯の秋を、明治戊辰に先づ丁卯の秋に比

較して其感想果して如何に？

一一〇

明治大帝の維新の宏業は明治戊辰の亂の平定に始まる。我等は昭和戊辰に兵亂あらんとは夢想だもせぬ。なれど、日比谷議場の空氣は何となく險惡である。封建時代の志士國士は、劔戟に由りて戰場で相争ふたが、立憲治下の志士國士は筆舌に由りて議場で相争ふのである。希はぬことではあるが、第五十四議會は、明治戊辰の變にも比すべき程の騷擾を極むることなきであらうか。解散、非解散、何れにしても總選舉は目睫の間に迫る。然も其の總選舉は我邦始めての普選である。普選に由りて選出されたる選良の和衷協調の翼賛に由り、昭和維新の偉業が始まる譯ではあるまいか。

申すは恐多きことながら、今上陛下は、明治大帝の御面影を留めさせ給ふこと數々、御氣象も亦、明治大帝に甚だ似通はせ給ふと人々相云ふ。天顏に咫尺し奉るの光榮を負ふ毎に、我等亦其感深し。今上陛下は、明治大帝のそれに比すべき偉業を成就し給ふの瑞相を備へさせ給ふにあらざるなきか。

かねがねより、今上陛下が、いとも御聰明に亘らせられ、御情け深く且は誠に御勇ましく入らせらるることを拜聞し居りしが、昨秋十一月、大演習御統監の爲に、當名古屋

市に行幸行在し給ふた折柄に、我等市民は、親しく、しみじみと、今上陛下は、實に知仁勇三徳の權化にましますことを、了得致して恐懼した次第である。

十日間に亘る長き御滞在中、御寢食の御暇もなきほご御精勵の有様は、只恐懼に堪へぬと申す外はない。御寸暇も御利用遊ばされ、教育、産業、其他各方面へ行幸仰出され、至る所優渥なる勅諭を賜はりて、一同を感泣せしめ給ふた。

數日に亘り、御陪食の光榮を承けたる人々少からざりしが、其等の人々は、餘りに天顏咫尺のかしこさに、恐懼の餘り、ナイフ、フォークをも動かし難かりし有様なりしに、陛下がイトも打ちとけ給ふて御物語ありし爲に、いつの間、にやら御情けにほだされて、皆々御食事は勿論のこと、私如きは數々の御酒まで、遠慮なく頂戴出来るやうになつた程であつた。

御統監中、陛下があまりに御勇ましく渡らせらるる爲に、御馬上の御供を不本意ながら御辭退申上げなければならなかつたものも少からざりしと漏れ承はる。

陛下は生物學にイトも御造詣深く入らせられると承り居りしが、御下問を承り、御物語りを拜聽するに、實に博聞多識に亘らせられ、我等學界に身をおくもの、ひたすら恐

懼するの外ありませんでした。舊臘十二月二十九日の諸新聞に、東京電話で田中首相の談として左の記事があつた。

「日本にもいゝものがあるだらう」

と仰せられて、聖上陛下より、名古屋産の洋服地を御下賜

田中首相謹話

【東京電話】天皇陛下には本日廿八日國務大臣樞密顧問官元帥に對し御陪食を賜つた後、名古屋産の洋服地を御下賜になつた。これは陛下が國產獎勵の大御心を以てさきに名古屋地方における大演習の際御買上になつた品で、陛下が御下賜の際「さうだ日本にもいゝものがあるだらう」と仰せ遊ばされた。一同この有難い大御心に對し奉りたゞ感激の外はなかつた。又陛下は極めて御質素に遊ばされ、御使用の時計は貴族院議員山崎龜吉氏の製造してゐるものでニツケルの十二、三圓の腕時計をお召し遊ばされてゐた。今日やゝもすれば華美に流れんとする折柄、聖旨の程もこのばれて恐懼に堪へぬ次第である。」

このことに就いては、昨年十一月二十一日私共が御陪食を仰せ付かりし時、御煙草頂戴の席上にて陛下より親しく御物語りを承つた次第である。陛下は數々の反物を自

ら選定したと仰せられた。人々にやるのみならず自らも召すと仰せられた。國產振興のこと、染料改善のことともに付いて御軫念の旨をも承つた。陛下自らポケットより御引き出しになつた、細き打紐のついた拾貳圓五拾錢の山崎製のニツケルの時計をも拜見した。

之を思ひ彼れを思ふにつけ、陛下が我邦産業振興の爲に、如何に御軫念あらせらるゝかを拜察して、ひたすら恐懼する次第である。

つら／＼萬邦の歴史を案ずるに、諸外國のそれは、下、上を尅することに由りて政令新なるに、我邦のそれは、上、下を憐み給ふことに由りて、國運彌榮え來つた。それは我皇祖皇宗國を肇め給ふこと宏遠に、徳を樹て給ふこと深厚なりしに由るのである。天孫降臨し給ひし時に、天照大神が授け給ふた三種の神器と、之に寄せて下し給ふた神勅とは、實に神武建國の理想、歴代天皇の治世の要道である。教育勅語に、國體の精華と宣り給ふたも、三種の神器に寄せられたる神勅に外ならぬのである。

劍の如くに剛勇果斷に御國にあだなす敵を亡ぼせ。玉の如くに仁慈博愛に民を慈め。鏡の如くに是非曲直分明なれ。國を治むるに、智なれ、仁なれ、勇なれとが、三種の神器に

寄せ給ふた神勅である。歴代天皇が三種の神器を常に玉体近く捧持し給ふは此故である。昨年 陛下當市へ行幸の折、ブラットフォームで奉迎奉送申上げられたる諸君は神器渡御の神々しき有様を親しく拜觀されたてありませう。歴代天皇が三種の神器に由りて國を治め給はん限り、それ以上の國体を何人か敢て描き出すことが出来得るであらうか。之れが神武建國以來、二千五百八十八年、萬國無比の國体の下に、我等大和民族が、感恩の理想郷に常住し得た所以である。天皇は國家の元首として、大和民族の家長として、三種の神器に由りて國家を統治し給ふ。我等は臣民として、又臣子として、眞心もて其統治を受くる。之を忠と云ひ孝と云ふのである。我國体は忠孝爲本の國体と云ふのは此故である。干支を語るものは云ふ、戌辰と云ふ年は、我邦には國運向上の運氣ある年であると。昭和戌辰の春元旦は、白雲高く昭和維新の瑞氣漲れるかに感ぜられた。三種の神器に由りて表徴されたる、知仁勇三徳の權化でまします 聖上陛下は、此年即位の大典を擧げ給ふのである。我等國民は、此年此際、如何なる覺悟あつて然るべきであらうか。

我等は明治二十三年以來、立憲政治の國民となつたが、我等の理解が餘りに薄かりし

爲か、輒近著しく、制度の運用上圓滑を缺くのうらみがある。今昭和戌辰の春には、普選に由る總選挙が行はれ、之に由つて國民舉つて政治に參與するのである。此際、我等國民に如何なる覺悟あつて然るべきであらうか。

大正九年の經濟界の反動以來、我邦の産業は誠に憂ふべき状態にある。若し此儘に推移せんか、マルキシズムの浸入なくとも、我等國民は、舉つてプロレタリアとなる恐がある。此時此際、我等國民に如何なる覺悟あつて然るべきであらうか。

維新とか革新とか云ふ時は、乾坤一擲の大變化を聯想する人々が多いやうであるが、そんな大變化は願はしからぬは勿論のこと、願ふたとて起るものでもなければ、若しも起るとすれば願はぬとて避け得られるものでもない。維新革新はそんな變化を云ふのでなく、讀んで字の如くに、日に、維れ新なるが維新であり、革め新にするが革新である。政治家實業家教育家宗教家各々其職分がある。各自が己の職分に就て、日に、維れ新に改善進歩を見る時は、之が総合的に國運の隆昌となり、其結果が昭和維新或は昭和革新として後世に謳はるるやうになるのである。要は八千萬の同胞が、各自に己れの本分に立ち歸り、己れの職業に日々に維れ新なることに由りてのみ、今

上陛下の昭和の大業を翼賛し奉ることが出来るのである。今まで八分働いた人は十分働け。十分働いた人は十二分働け。政治家は政治家らしくあれ。教育家は教育家らしくあれ。坊主頭に鉢巻するな。議場に鉄拳はふさはしからぬ。おさんごんは鍋釜を嫌ふな。百姓は鋤鍬をいやがるな。八千萬の同胞各々己が受持本分を護るに、日に／＼維れ新なれ。我等臣民が斯くあつてこそ、今上陛下は昭和の大業を目出度く成就し給ふことが出来るのである。

九、直轄學校其他に於ける祝辭

祝 辭 其 一

(和歌山高等商業學校第一回卒業式に於て)

予は三たび和歌山市を訪れたり。第一次は本校開校式の際、第二次は昨年高等商業學校長會議を本校に於て開催の際、第三次は即ち今回にして、本校第一回卒業證書授與式に參列の爲なり。

第一次訪問の際には、先づ本校が如何に景勝の地に置かれ、自然的に、歴史的に、當代の産業界の鬪士を養成するに適當なる場所なるかを感知せり。第二次の訪問に際しては、比較的、時に餘裕ありし爲に、校舎寄宿舎等精密に參觀し、又本校教養の趣旨等詳細に聽聞して、本校が創立後僅少なる年月の間に設備完整し、時代適切の教育施設に何等違算なきを見て、痛く感服せり。又會議中二日間本校にある間に、全校に漲れる緊張したる氣分に感觸して、本校の光榮ある前途を卜知せり。聞説、神武天皇東征の砌り、きの國南端の岬に上陸し給ふたりと。紀伊の國は、きの國の轉訛、きは樹木の木にして、繁茂生成を意味す。きの國は即ち神武建國發祥の地とも云ふべく、皇運の長久と共に、きの國の名天下に響る。

紀の國は又天下要衝の地、徳川家康此に見る所ありて親藩を置く。徳川中興の名君八代將軍吉宗は紀藩の出、維新の元勳、日清戰爭當時の外務大臣、カミソリ大臣のアダ名ありし陸奥宗光伯は此國の人、日本全國足跡至らざるなき大徳弘法大師は、特に高野山を選んで佛法興隆の淵源地と定めたり。爾來高野山の名、津々浦々まで響き渡りて、我等民族の精神文化に貢献せし所少からず。普く人口に膾炙されたるカツボレ踊りの「沖の暗いのに白帆が見ゆる」の主人公は、紀の國や文左衛門、明治財界の傑物足尾銅山王古河市兵衛も亦此國に縁故淺からざりしとか。

予念ふに、和歌山高商の背景は完全なり、校舍其他の設備は整備せり、教授團は新進氣鋭の士を以て充たされ、校長の統率其宜しきを得、全校の學風誠に見るべきものあり。此校門より、我產業界に、幾多の伏龍鳳雛を送り出さんこと、期して待つべきなり。予大阪を経て始めて和歌山市に來りし時、不圖胸に浮び出でしは、三國史に、諸葛孔明襄陽に靜に起伏して天下の形勢を窺ふとの一節なり。襄陽は時の都洛陽の南に當り、程遠からぬ地に位せり。孔明此地に在りて三たび劉備立徳の訪願を受く。蓋し、立徳は「伏龍鳳雛の内其一人を得ば天下を三分して其一を保たん」との徐庶單福の進言に由

り、孔明を草廬より立たしめん爲に三度彼れを訪れしなり。伏龍とは諸葛孔明にして、鳳雛とは龐統を言ひしとなり。

予思ふらく、今の我產業界の最大なる都市は大阪市なり。大阪は三國時代の洛陽に比すべく、和歌山は襄陽に比すべし。今襄陽に比すべき和歌山市に於て、幾百の伏龍鳳雛が本校に於て養成されつゝ、ある。又財の都大阪には幾多の劉備立徳が天下を三分して其一を保たんを期待しつゝ、ある。彼等は三たび本校を訪うて伏龍を起たしむるの古智に倣ふことなからんか。

今や一國の興亡は其國の産業の盛衰如何に由るの時、本校に於て養成されたる伏龍鳳雛の責務甚大なり。責務の大なるに比して其榮譽も亦大なり。本日本校校門高く旭の旗翻りて諸君の前途を祝福し、滿堂瑞氣漲りて諸君の成功を物語る。予は此壯嚴なる式場に列したるの光榮を永へに記憶し、諸君の洋々たる前途に對して多望多幸なれと祈願して止まざるなり。

大正十五年三月十一日

祝 辭 其 二

(高松高等商業學校開校式に於て)

人は生の當初より經濟生活を離れ能はぬ。それは、人は食はねば生きられぬからである。これが經濟に即して人生を説かんとする學者が、あちらこちらに現はれた所以である。先王の道を説く所の孟子すら、恒の産無き者は恒の心なしと云うた所以である。人の經濟生活には、時代々々で其特色がある。パラダイスに於けるアダム・エバの生活があつたとすれば、それは自然經濟の時代と云ふべきであらう。食ふも考へるも自然のままに、であつたからである。彼等がエデンの園から逐はれて以來、人は面に汗して食はねばならなくなつた。即ち勞力經濟の時代に這入つたのである。それより後は、水草を逐うて移住した遊牧經濟の時代もあり、春秋戰國様に略奪に由りて衣食したる軍國經濟の時代もあつた。さて我等の今は如何なる經濟生活の時代であるか。我等の今は商業經濟の時代である。即ち今は商業を中心として、總べての産業政策が講ぜられねばならぬ時代であると云ふのである。封建制度の下では、一面軍國經濟であり、他面自給自足主義の農業經濟の時代であつた。然るに今の時代では、自給自足主義で

は、我等の經濟生活は完了せられ能はぬ。否、交通機關の餘りに完備したる今の世には、自給自足主義は、とりたくも世界の氣勢が許さぬのである。明治維新の頃ですら、我等の父兄は、鎖國攘夷の主張を捨つべく餘儀なくせられたではないか。

今は有無交易を本義とする商業經濟の時代である。今の我等は此時代に順應すべく準備せねばならぬ。

世界民族中で、逸速く商業經濟でふ時代に目醒めたは、恐らくアングロサクソンであつたであらう。彼等は、歐洲他民族が領土侵略で戦うて居る間に、商業戰で亞細亞亞弗利加亞米利加の各地を無抵抗に彼等の市場化したのである。そしてそれが今日の彼等の富と偉大とを成さしめたのであるまいか。

商業經濟には國境はない、世界は互市場である。又商業經濟の特色は、我れと彼れとの物資の交易は勿論のこと、第一第二第三の彼等の有無交易を掌ることも含まれるのである。我國の如くに、領土狭少、人口稠密、然も異常な速力で人口の増加する國柄で、自給自足主義の農業經濟政策でも取つたなら、マルサスの人口論の原則通りに、百年ならずして、我等民族餓死の時が來るであらう。今の我國は、軍國主義で領土を極力擴

大するか、然なくば適地適産有無交易主義で全世界の隅から隅までも、我等の市場化するの外あるまい。

軍國主義は民族共存共榮の人道に反する。人道を無視するとしても、我等がニツチエの所謂超人ならざる限り、獨逸カイゼルの二の舞を演ずる危險が伴うて居る。故に今の我等には商業を中心としたる産業立國策を講ずるの外、我等民族の生くべき道は更にないのである。我等民族が將來世界的に如何なる地歩を占むべきか。榮枯盛衰、一に今の我等の世界的商業戰に於ける功敗に由るのである。然して我等の功敗は、一にも人材、二にも人材の有無に由るのである。

今の時代の要求は、諸般の産業は勿論のこと、政治外交に至るまで、商業を中心として、或は經營或は施行せらるべき一事である。云ふは、商業的見地を離れたる産業は國を富ますに足らざるべく、商業を忘れたる政治外交は、國家の衰運を招致すると云ふのである。故に今の第一急務は、職業の如何を問はず、國民全體に商業的知識を徹底させると云ふことにある。

軍國經濟の時代には、國民皆兵の制度を取るが得策であつた。それは鬪士の多寡は直

に功敗に影響したからである。今の商業經濟の時代には、國民皆商の制度を布いて然るべきである。國民皆商とは國民舉つて商人たれとの意義にあらずして、農工の産業従事者は勿論のこと、政治家軍人に至るまで、今の商業經濟時代の要求と、之に處するの要道とを理解して、各自の職業に従事すべく、若し又必要ある時は、何時たりとも戦闘第一線に立ち得る覺悟と資格あらしむべしとの意義に外ならぬ。

今や商業戦闘の第一線に立つべき闘士は、多々益々辨ずるの時である。亞細亞民族の商權すら、歐米民族の手に歸して居ると云ふことは、如何に我等の民族が、斯界の人材に缺乏してゐるかを物語るものである。此時此際、曩に高等教育機關の擴張に由り、設立せられたる我高松高等商業學校が此に開校式を舉行せられ、明年三月より斯界に年々多數の人材を輩出せらるると云ふことは、國家の爲に誠に、民族經濟危機の際、無上の幸福と云はねばならぬ。

由來讃岐國は、我邦文化史上思出多し。「いろはにほへ」との作者とし、精神文化の貢獻は云はずもがな、物質的にも、殖産工業上、我等民族が負ふ所少からぬ空海を育みたる善通寺は、此土の歴史を飾る。民に其職を得しめんとて起工されしと傳ふる栗林公園

の偉觀は、延寶の昔の松平頼重公の人格を忍ばしむ。尾藤二洲古賀精里と共に寛政三博士と並び稱され、徳川幕府の學政を料理するに當り、衆言囂々の中に、毅然として動かず、遂に其功を修めし柴野栗山は、具さに高松人士の性格を物語る。源平の古戰場としての屋島の名を聞きて、我等は、新羅と事を構ふるに當りて、此地に城塞を築き給うたる天智天皇英邁の治世を追慕する。分けても、船頭水主の崇敬彌厚く、本邦全土に亘りて神威あら高なる琴平神社は、誠は我國商業保護の神ならんか。岡田千金丹の名は、そゞろに倭寇當時の我等民族の此の地に住める人々の士魂商才を思はしむるのである。時代は商業經濟の時代なり。處は我邦文化史上重大なる意義ありて、然も商業經濟時代の理想神鎮護海上船舶擁護の神鎮座在します。此地なり。開かれしは商業闘士養成の高等商業學校なり。教授團には篤學の人士を網羅し、學生團には全國の秀才集まる。我等は、我等民族發展の爲に、本校の將來に多大の期待を爲すと共に、又本校の前途を祝福して止まざるなり。

大正十五年十月

祝 辭 其 三

(横濱高等商業學校開校式に於て)

凡そ民族の興亡は其民族の精神文化と經濟文化との基調如何に由る。

精神文化の發揚を致さんには國民に修養的訓練を與へて其の品格を高むるにあるし、經濟文化の進展を來さんには國民に職業的訓練を與へて國富を増進するにある。修養的訓練と職業的訓練とが近世教育の二大目的と云はるゝは此の故である。

封建制度の下では、士農工商の階級別歴然とし、武士は治者階級國家擁護のチャンピオンとして四民の上位に置かれ、文武兩道の教育に由り、修養的訓練と職業的訓練とを受け得たが、農工商の產業者は、被治者階級として武士に從屬せしめられた爲に、彼等には教育の必要も認められず、又其の機會も與へられなかつたのである。

然るに、今は時代が變化した。四民平等で、百姓は鋤鋤取つて、大工は鑿と鉋で、商人は算盤持つて、國民總立ちになつて、民族の文化を擁護せねばならぬ時代となつたのである。それ故に、今は國民全體に亘りて、文武兩道の教育に由り、修養的訓練と職業的訓練とが徹底的に施されねばならぬ時代である。

産業振興は、イッの時代でも、何れの民族でも、國是として強唱されて居る。それは、民族の經濟文化は、産業振興に由るの外、進展せられ能はぬからである。さりながら、國に由り時代に由り、其國其時代の産業を左右する政策が違つて居る。或は極端なる自給自足主義に由り、鎖國に近き保護政策を取るもある。或は税關開放しの自由制度を取るもある。

我等は長く封建制度の下で、鎖國攘夷自給自足主義の産業政策に育まれて來た。當代の經濟理想は、「百姓は御國の御寶なり」の數語に説き盡されて居る。然るに、黒船、一度下田港に、再び浦賀港に現はるゝに及び、遂に我等は、鎖國攘夷の主張を捨て、何等の準備なしに、商業經濟の第一段階に踏み込み、士族の商法をなすべく餘儀なくされた。爾來四十餘年間、治外法權御情關稅の下で、我等の經濟生活の生血を惜氣もなく他民族に捧げつゞけたのである。商業上無知識無經驗の我國民が、「彼等の國旗の向ふ所は必ず彼等の市場ならしめん」とて、軍國主義と商業政策とを並進せしめたる先進國氣取りの他民族を迎へ入れたのは、抵抗力無き油蟲が、活殺自在の蟻を我宿に迎へ入れたに異ならなかつたのである。我等は長く苦められたが、日清戰役の餘光で、治外法

權も徹廢せられ、關稅自主權も我れに收め得た。なれども、餘りに長く自給自足主義に慣らされた我國民は、開國以來數拾年間を経過しながら尙世界的商業經濟でふ時代の氣勢に目醒むることが出来なかつたのである。國家的人材養成の必要ありとて、教育は大いに振興されたが、國家的人材の意義が、大學者大政治家大軍人等に局限され、上大學より下小學に至るまで之等封建的意義の人材養成所の感ありであつた。産業振興は唱導されても、結局は自給自足の目的に外ならなかつたから、何等目立つ程の効果を擧げ得なかつたのである。それ故に日露戰役の後で、一等國になつたとて、國民擧つて大威張であつたけれども、國庫は空虛で、武士は食はねぎ高楊枝の有様であつた。

世界の人口は年々増加する。地球の面積には限りがある。特に我等民族の領土は猫額大、人口は稠密にして年々激増しつゝある。若しも我等が、自給自足主義の太平樂を謳歌しつゝ、行かんとするならば、それは、一枚の葉に無數の油蟲が太平を夢みて居るやうなもので、蟻の侵入なくとも、自滅の境に近づく外ないのではなからうか。

今の我等の急務は、時代の氣勢に目醒めて、適地適産有無交易を本義とする世界的産

業政策を講じ、世界の市場で覇權を獲得するに在る。

それには、政治、外交、軍政等總べて其心して鹽梅さるべきは勿論なれど、先づ第一に教育の制度並に内容に一大刷新をなして、産業界の闘士を多々益々養成するにある。實に於て量に於て優秀なる闘士ある民族は、此經濟的爭覇戰に於て必ず成功するであらうからである。

今は我等民族經濟文化の危機である。此危機に際し、世界的經濟戰爭の第一線に立つべき闘士養成の我横濱高等商業學校が爰に開校式を挙げられ、明年以後、歳々多數の驥足駿才を斯界に送り出さるゝは、我等民族の至幸と云はねばならぬ。

由來横濱市は六拾餘年前には一漁村に過ぎざりしと聞くに、帝都の外港、本邦貿易の關門として、他の追隨を許さざるものあつて、今日の偉大を致した。横濱開港史は即ち本邦の開國史で、泰西の文化は其精神的なると經濟的なるとを問はず、先づ此地に入りて徐に全邦土に浸潤したのである。商業的見地から過去を顧みれば、日本の横濱か、横濱の日本か。

本校は開學其日より既に其名かんばしかつた。蓋し横濱にと云ふ地の利を得、之に加

ふるに、學識經驗兼備の首腦者と、優逸なる教授團、秀才揃の學生團とを得たりしに由るならん。

人の氣概は周圍の環境に由りて育まると聞く。本校は本邦開國に斯くも由緒深き横濱市に、巍然として聳え、一眸千里、眼界洋々として際涯なし。此地、此校に於て育まれたる學生健兒の抱負、さぞかしならんと推せられる。又聞く、健全なる精神は健全なる身體に宿ると。本校校舍は實に堅牢無比にして偉觀なり。本校に宿る學生健兒の精神も亦堅實無比にして異彩あらん。

爰に民族の經濟文化發展の爲に、我等同人は眞心籠めて本校の前途を祝福する。

大正十五年十月二十一日

祝辭 其四の一 聖者は時代に輝く

聖者は時代に輝く、時代くで輝く聖者が違ふ、今の時代に輝く聖者は、子爵澁澤榮一翁ではあるまいか。

澁澤榮一翁の名は、私達の書生時代に既に知れ亘つてゐた。然し其當時の我れくは、翁の名をたゞ實業界の一成功者として、豪い實業家として、心にとめてゐるに過ぎずして、翁に對して別に人格的な敬慕を感ずると言ふ程でなかつた。其後、我輩は身を教育界に投ずることになり、幾歲月の後、期せずして小樽高商の責任者となるにつれ、「武士は食はねぎ高楊枝」の封建時代の國民道德觀と、「素町人の分際」てふ實業蔑視觀との調節に殆んご當惑したのである。然るに、時偶々翁の「論語と算盤」と言ふ一小冊子を見るの機會を得、始めて之なる哉と廓然として悟る所あり、同時に又、翁の内面的人格に親しく觸れることが出來たのである。今までは實業界の一成功者とししか見えなかつた翁が、爾來内面的に充實したる人格と識見とを以て、當代を指導する聖者として我輩の胸にせまるやうになつて來た。其後我輩は、翁の「新商道」・「實驗論語處世談」等

を読み、又機會あるごとに翁の言動に注意した。そして、讀む毎に、注意する毎に、イッも何ものか新に得る所があつた。それは、翁の所論は、凡て國家てふ大局觀から、國利民福に即して國民道德を實現し、又國民道德に即して國利民福を實現せんとする努力の發露に外ならないからである。

或學者が今の歐洲の思想界は、ナポレオン主義とキリスト主義との戰で混亂状態に在ると云うた。之れは歐洲に限らない。我等民族は、明治維新以來痛切に此戰に苦められて居るのである。梁の惠王は利に生きんとする、孟子は仁義に生きんとする、此兩者が仲直りをせない限りは、現土を理想化することは出来ない。それには、翁の論語と算盤の調和道の外に妙策はあるまい。

今や産業立國が我國に於て唱へられつゝある。而して其基礎工事は論語であらねばならぬと云ふこと、又算盤を離れたる社會道德は無意義であると云ふことが、遅蒔ながらにも有識者によりボツ／＼理解されつゝあるは、全く翁の賜である。

聞く、翁は近く米壽を迎へられると、希くは幾度も幾度もいく久しく、米壽を重ねられたい、重ねられるれば重ねられる程に、それが我等の國利民福を重ねる所以であるから

である。

名古屋高等商業學校は大正十年五月の開校であるが、其祝歌に「算盤片手に國旗持ち」の一句がある。之は國旗を國民道德の標徴と見て翁の實驗論語の趣旨を謳うたのである。

昭和二年七月十五日誌す

祝 辭

其四の二

(昭和二年實業專門學校長會議の折柄、時の首相招待の午餐會席上に於て一同を代表して)

首相閣下、今日は、我々學校長會議參列者一同御寵招を蒙り、御鄭重なる御饗宴を賜は

り、誠に光榮の至り感激に堪えず、此に一同を代表して有難く御禮申し上げます。

専門學校長會議開設已來、此に二十幾年になること、存じますが、時の總理大臣から、何等か特別緣故に由るものは別として、會議參列者が公式に招待を受けたと云ふことは、恐らく之れが嚆矢であらうと信じます。言葉を代へて云はゞ、歴代内閣の首相は數多ある中に、未だ嘗て我れ々教育者を顧みるものなかりしに、閣下に由りて始めて我れ々教育者が顧みられたと云ふことであります。それに付け此に思ひ出さるゝは、唐の魏徵の人生感意氣、誰亦論功名の述懐であります。

由來、我れ々の教育者は、至つて小さな胃袋と、至つて大きな誇りとをもつて居ります。我れ々の胃袋は甚だ満足されやすくあるに、我れ々の誇りはいと満足され難くあります。物質的に満足されやすく精神的に満足され難き我れ々が、今日此一席の御饗宴に對し、衷心光榮の至りなりと閣下の御厚意に感激するは、そは、我れ々の

小さな胃袋が満足されたが爲にと云はんよりは寧ろ我れくの大きな誇り、いとも満足され難き大きな誇りが、今日始めて満足されたが爲であります。

閣下は一國の宰相として寸暇なき折柄に、歴代の首相中何人も顧みるものなかりし我れく、教育者を顧みて、此饗宴を設けられ、然も只今の御挨拶に由り、教育者尊重の深き御思召を拜聽するに於て、我等は深く閣下の意氣に打たれ、功名何のそのと感奮致す次第であります。只憾むらくは、我等は任重うして力足らず、閣下が我等に期待せらるゝ其萬一に副ふことのいと困難なるを知る。爰に杯を舉げて、邦家の爲に閣下の御健康を祝し、今日の御寵招にお答ひ致します。

本片は卓上即席挨拶の事にて原稿は勿論、手拍もなかりしに、此度政友會内閣總辭職の報を耳にし、ありし其日の思出をたゞりて。

昭和四年七月誌す

祝 辭 其 五

(名古屋市立第三商業學校新築落成式に於て)

本日本校新築落成の式典に際し、私は衷心より御喜を申し上げます。それは、現代産業の見地より、又當名古屋市の大勢より、斯種教育機關の整備は、誠に急務なりと信じて居りますからであります。

我々は、長く、自給自足を本義とする産業經濟の時代に棲息致しましたが、人口の増加、人智の發達、欲望の向上、世界産業の大勢により、知らずくの間、いやおうなしに、有無交易を本義とする、産業經濟の時代に引きづりこまれたのであります。自家の需要は、自家で供給するを本義とする自給自足經濟時代には、土地に適しようが適せまいが、己れにふさはしからうが、かまいが、自家の需用する所ものは、自家で産出せなければならなかつたのであります。然るに今やうに有無交易を本義とする産業經濟の時代になつて見ますと、適地適産適者適産で、他人や他國の需用を自家や自國で供給し、自分や自國の需用を他人や他國から供給して貰ふ次第であります。印度やエジプトの棉花や、濠洲産の羊毛を、我々が着る。其代りに、我々の絹糸絹布で、ロンドンや紐

育の乙女達を飾る。南洋のバナ、ヤバ、イヤヤ、ブラジルのコーヒーが、我々の食卓に上る代りに、宇治や静岡の緑茶が、英米人の口腔を清める。之れが現代産業の特色である。自給自足経済時代の産業は、農業が産業の中樞でありましたが、有無交易経済時代の産業は、商業が中心となつて諸般の産業が振興せらるゝのであります。即ち商業を中心として農業も工業も経営されねばなりません。戦國時代に、國民皆兵氣分が必要であつた如くに、今の有無交易経済時代には、國民皆商の氣分が必要となつて來たてはありますまいか。斯る際に本市に於ては第一第二第三商業と逐次に商業教育機關が完成された次第であります。

又當名古屋市の人口は將に百萬になん／＼とし、此分で進み行くなれば十數年後には或は本邦第一の大都會となるやも知れぬ。之は本市が天の恵みと地の利とを得て居るからである。中京と申しますが、本市は誠に本土の真中にある。濃尾の大平野の中心とは申しますが、誠は濃尾勢の大平野の中心である。脊中に當る所の裏日本へは、甲信越を通じて大動脈が通つて居る。熱田築港完成の曉には、四圍の狀勢より察するに本市は實に東洋隨一の商港となるべき運命あるかに感ぜられます。

時代は、有無交易を本義として、諸般の産業が經營さるべき商業中心の時代なり。所は、世界の互市場として、天の恵と地の利とを擁抱する我名古屋市なり。此時代に、此場所に於て、此種商業教育機關がふさはしき校舍とふさはしき設備とを以て完成せられ、將に我産業界に大なる貢獻をなさんとす。之れが私が衷心より御喜申上げた所以であります。

賢明なる市當局者は、時代産業の趨勢に鑑み、本校の整備完成に事足れりとせず、更に進んで第四第五商業の企畫あること、私は信じて居ります。又如何に商業経済時代なればとて、商品なくて、カラ手で商賣は出来ません。無きものを得んと欲すれば、有るものを與へねばなりません。我等が欲するものは、彼等が欲するものと交換せねばなりません。故に賢明なる市當局者は、商業教育機關の大成を考慮せらるゝと同時に、又工業教育機關の大成をも考慮せられつゝあること、私は信じて疑ひませぬ。

進み行く大日本帝國の爲に、膨れ行く名古屋市の爲に、當代産業發展の爲に、爰に私は本校の前途を祝福致します。本校當局の各位、邦家の爲に幸に健在に在らせられよ。

昭和三年六月一日

祝 辭 其 六

(高岡高等商業學校開校式に於て)

賴朝府を鎌倉に開いて已來我等は七百有餘年封建制度の支配を承けた。此間政治政策上の軍國主義と經濟政策上の自給自足主義との併用に由り、士農工商の階級別が打ち立てられ、軍國主義の見地より、士は四民の上位に置かれ、自給自足の經濟政策の見地より、農は直接生産者たるの故を以て第二位に置かれ、間接生産者たる工は第三位、何等生産關係なく徒らに交易の媒介を爲して私利を營む者と認められたる商は、四民の最下位に置かれ、百姓は御國の御實なりと農は崇められしに、素町人の分際なごと商は卑められた。之れが封建時代の世相であつた。

然るに時代は推移した。軍國氣分が薄らぐに従つて、武士階級は消滅し、今は士族の稱號は徒らに戸籍上の肩書に過ぎぬ。農工商の別はあつても、之は職業別で、階級別ではない。強ひて階級別を唱ふるなら、今は寧ろ商工農士の順序になつて、商が四民の第一位を占むるかに感ぜらるゝやうになつた。それは、今は有無交易を本義とする商業經濟の時代であつて、商業家の活躍が中心となり、之に由りて國家産業が振興せらるゝ、

時代であるからである。

金融機關の發達整備に由り、我等は時代を超越して富の分布を爲し交通機關の發達整備に由り、我等は國境を超越して富の分布を爲し得るに至つた。金融機關と交通機關との發達整備は、實に近代産業に一大變化を來し、縦には時代の區劃を減ぼし、横には國境を減ぼして、富の享樂をして普遍的ならしめたのである。時代の經濟相をして、今の有無交易を本義とする商業經濟の時代たらしめ、商業家の地位を無限に高からしめたは、實に商業家が此兩機關を巧妙に運用したるに由るのである。

今の時代では、南洋の果實は最早彼等土人の專有ではない。彼等の果實や、ブラジルのコーヒーが我等の食卓に上り、我等の綠茶がロンドン人や紐育人の口腔を清める。濠洲産の羊毛を我等が着て、我等の絹糸絹布が彼等を飾る。一握りの棉花すらなき我國に於て綿業興國論が起る位に、我邦の紡績業が發達した。之れが有無交易經濟のもたらした特徴である。

ラジオや航空機は尙其應用の初段階に於てあるが、おつつけ居ながらにして倫敦や紐育に於ける芝居や歌劇を見たり聞いたり、日曜日には下駄ばきて倫敦や紐育はさ

て措いて月の世界に一日の清遊を試みるの時節が來るであらう。

孔子は仁を説き、基督は愛を説き、釋迦は慈悲を説いて、人類の共存共榮を強調したが、自給自足經濟時代にはそれが實現され難かつた。それは自給自足經濟では、他人のおナカをふくらせばふくらす丈、それ丈自分のおナカがひもじさを感じる場合が多かつたからである。然るに有無交易の商業經濟時代になつて見れば、慈悲を語らず愛を説かず、人類相互の共存共榮の實が上げられつゝあるのである。

世亂れて英雄を思ふと云ふが、何れの時代でも社會は偉人豪傑の輩出を希ふ。然し、時代ノ、で偉人豪傑の意義が違ふ。今の社會が希ふ所の偉人は、豊太閤に非ず成吉思汗にあらずして、世界の互市場を自由に切り廻す大商人である。斯る大商人に由りてのみ、世界民族の共存共榮と誠の自由とが實現せられ得るであらうからである。私は心から本校の誕生を祝福する。それは今より本校は時代が要求する幾多の偉人材幹を年々歳々輩出するであらうことを深く信ずるからである。

聞説く、富山縣は日の下開山梅ヶ谷太刀山の出生地なりと、銀行王安田善次郎氏も亦此地の人、彼は實業界の目下開山横綱と云はるべきであるまいか。淺野總一郎氏も亦

しか謳はれんか。

一四六

乗合船で越中名物何やらんと尋ねたら、「越中は富山立山薬賣り、呑めば轟く萬金丹、魂反す反魂丹。伏木高岡滑川、海に光るは螢鳥賊、空に輝く蜃氣樓」と聞かされた。

富山は山なす富を意味し、立山は何となく立身出世の聯想を運ぶ。
富山の平野、立山の麓、伏木港灣を控へたる高岡に、設置されたる本校は、海に光り空に輝く瑞相あるにあらざるか。本校の洋々たる前途こそ、誠に邦家の爲に慶賀祝福に堪へざるなり。

昭和三年十月二十日

祝 辭 其 七

(愛知縣立第一中學校五十周年記念式に於て)

五十年と云ふことは物と事とにより、長くもあり亦短くもある。明治五年、漸くにして學制の頒布されたる我國の教育よりせば、愛知一中五十年の歴史は、本邦教育史上特筆すべき程誠に長き貴き五十年と云はねばならぬ。

凡て民族は、建國の理想に活き、其歴史に誇る。然も其民族の文化の中核を爲すものは正に教育である。本校五十年の歴史は、實にそれが長き貴き五十年なるのみならず、其内容も亦至つて豊富である。それは、政治に、軍事に、實業に、將た教育に、其他社會各方面に、甚だ多數の國家的人材が本校より輩出せられて居るからである。

過去を案ずるに、愛知一中が、獨り東海に覇を唱へしに止らず、普く天下に其名を知られたるは、甚だ故ありと云ふべしである。

さは去りながら、歴史の貴さは、其歴史が斷えず現在及未來を刺戟して、限りなき進歩發達を促進するにある。徒らに光榮ある歴史を誇りて、現在を忘れ未來を思はざるは、徒らに祖先の光榮を誇りて、現實の我を忘るゝものである。

一四七

一中健兒よ、諸君の先輩に由りて飾られたる光輝ある五十年の歴史は、既に過ぎ去つたのである。來るべき五十年、百年、いな永遠に、本校の歴史を飾り立て、尙ほ一層光輝あらしむるは全く諸君の任務ではあるまいか。

諸君の校歌に

實にも我等は此土地に、撫育せられて其上に

鼓吹せらるゝ英氣をば、受けて盡さん國の爲。

とある。私は云ふ、

實にも君等は此校に、撫育せられて其上に

尊き歴史持つからは、受けて汚すな國の爲。

此に開校五十年の式典に際し一中健兒の名聲が彌が上にも彌高からんことを希ふの餘り、斯く云うて祝辭に代ふ。

昭和三年十月二十七日

祝 辭 其 八

(彦根高等商業學校五周年記念式に於て)

教育は長き歳月を経て尙ほ大成し難き程至難の事業であるに、本校は開校以來僅に五年、然も其基礎既に成り名聲天下に響ばし。

澁澤子爵嘗て商道を説いて論語と算盤の協調を力説す。當代は有無交易を本義とする商業經濟の時代であつて、社會は斯界に偉人の出現を切實に要望する。斯界の偉人とは士魂商才の士にして、能く論語と算盤とを協調せしむるの士を云ふのである。

私は洋々たる本校の前途を祝福して止まぬ。それは近江聖人の譽と近江商人の名聲とを占有する此地に於て、創設されたる本校は、當代社會が要望する所の人才を、歳々年々多々輩出するであらうことを信ずるからである。

神代の昔、昔々の其又昔、靈峰富士の山と、靈湖琵琶の湖とが一夜に出來上れりと聞く。琵琶の靈湖を校庭の池と眺むる本校學生諸君は、期せずして其氣宇廣大に、其德操深厚なるものあらん。

北日本海と南太平洋とを結婚せしめて、世界通商の覇權が琵琶湖上に收めらるゝの

日彦根の町は東洋無比の大市場となり、本校の名聲は富士の靈峰と共に永へに彌高かるべし。

昭和三年十一月一日

祝 辭 其 九

(岐阜高等農林學校植物園設定式に於て)

今上陛下には農業に大御心を寄せさせられ、長くも農作の實際に當らせたまき思召しを以て、今夏赤坂離宮内苑の一部に苗代を設け給ひ、親しく御培種遊ばされたと漏れ承る。

皇后陛下には蠶業御奨勵の長き思召しより皇太后陛下の御ならはしを其儘御繼承になり、本年から宮城紅葉山の御養蠶所に於て御手づから御養蠶遊ばされたと承る。御聖旨の程、只管恐懼に堪へないのである。

此度の御大典に際し、大嘗宮に於て悠紀主基の祭司御親修の次第を承り、由來農を以て國の大本とする我が瑞穂國の淵源に想到して、感激する所一段と深きものがありました。

人口の増加は輓近著しきものあり。マルサスの云ふ如くんば我等は餓死するも及ばざるの感あり。しかも然らずして御互の今日あるは、誠に有難き國體の本に棲息し殖産興業御奨勵の大御心の賜なりと、感泣の外なき次第である。古を案じ今を思ふに就

け、濃尾の大平野を居城として本邦斯界の明星たるべく設立されたる本校の使命は、甚だ重大なりと私は信ずる。

此度の御大典に際し各地に於て幾多の記念事業が計畫されたやうであるが、其最もふさはしきもの、中に植林植樹の計畫も相當あること、信ずる。之は千代八千代かけての生々繁茂に由りて君が代を壽ぎ奉らんとする趣旨に外ならぬ。然るに本校は其記念事業として植物園の設置を選ばれ、本日を以て其設定の式を挙げらる。之は又一段の光彩と云はねばならぬ。それは植物園は生々繁茂の外に、更に教育上の意義と社會公益上の意義とが加はるからである。

今本校計畫の植物園を見るに、其規模甚だ宏大なり。然も此宏大なる土地は本那加村より無償提供され、本校は又之れが完成の暁には學術研究並に應用の園となすと共に、之を公開して一般公衆の参考並に享樂に供すと聞く。これ洵に昭和聖代を壽ぎ祝ふ、昭明協和の實を眼のあたりに示されたるものであつて、記念事業として格別に意義深きものあるを覺ゆる。

本校教授團は創立當初より多士濟々、分けて校長閣下は斯界に於ける學德兼備の士、

お苗字の草場はちと土臭いがそれが又妙、農林學校長としては如何にも謙讓の意を顯はして甚だ奥ゆかし。お名前の榮喜に至りては繁榮歡喜五穀成就七寶充滿百花爛漫の聯想を運ぶ。今まで草場でありし土地が君の手に由りてエデンの園蓬萊の樂土になるとの瑞相を暗示して止まぬ。

言ふまでもなく當地方は本邦稀有の平野を包容し、農産物殊に美濃米を以て名ある所である。さきには小野蘭山と相並び我國植物界の二傑と稱せられた飯沼愨齋先生を出し、近くは斯導の權威三好學松井直吉兩博士を産めり。殊に又明治以來政治に教育に學術に將又特殊の事業に先鞭をつけたる幾多の名士を出せり。本校が斯る廣大なる植物園を學校に附屬設定したるが如きも亦我國教育界に先鞭をつけたるものにして、管に之が御大典に對する好個の記念事業と云ふに止まらずして、實に我國教育界に幾多の衝動を興ふる又好個の記念事業と見ることも出来る。本植物園完成の暁には、金華山麓の自然の風致と相待つて、岐阜高農の名聲と共に那加村植物園の名天下に謳はるべし。

昭和三年十一月二十五日

祝 辭 其 十

(中京商業學校野球場設定披露式に於て)

私がかね／＼より、我校の生徒や我子供に對し、職業は衣食の方便ではない、人生の目的である、人が由りて以て社會に存在するの理由を語る所のものである、と云ひ聞かせて居る。職業を衣食の方便と心得るから、兎角收入の多寡に由りて職業の尊卑を論じ、ポ－ナスの多い少いで煩悶する。人は職業に由りてのみ生くべくある。職業に由りて我は生き、職業に由りて我は社會に奉仕すると思ふなれば、世の中に尊からぬ職業は一もない。一文二文の小商ひしても、其人の心掛次第では、誠にそれが尊くある。大會社の社長重役でも、我利／＼盲者で支配するなれば、それは卑しくある。花咲翁は櫻花をふらしたが、慾張り爺は灰を蒔いた。種は同じでも、蒔手の心掛次第で、灰になつたり櫻花になつたりするのである。我々が職業にたづさはるも、其通りである。

中京商業學校は、創立其日甚だ淺い。それにも拘はらず、今日の隆盛を見る。何等かそこに譯があるであらう。歐米殊に英國に於ては、私學萬能であるに、由來我邦には私立學校は概して振はない。我名古屋市に於ては特に然りの感がある。然るに本校は斬然頭

角をあらはして其名聲甚だ香ばしくある。理由は那邊に存するであらうか。本校教育方針として、訓練の項に、「人格の完成の爲め眞劍味なる一語を訓練のモットーとして、眞劍なる精神に基き人としての本分を遂行する習慣の養成を本校訓練の眼目とす」と書いてある。眞劍味なる一語が、本校隆盛の由來を具さに語るにあらざるか。

校長は眞劍味なり、職員も眞劍味なり、生徒も舉つて眞劍味なり。眞劍味は鬼神を泣かす力あり、校主校長職員生徒舉つて眞劍味である以上、本校の校運隆盛ならざるを得んやである。

眞劍味には我欲はない。一意専心其目的に向つて邁進するのである。精神一到何事不成とは、眞劍味を云ひあらはした古語である。古語ではあるが、萬代不易の銘言である。私が先に、人は職業に生くべくあると云ふたは、眞劍味を云ふたのである。人は何の職業に就くに拘はらず、眞劍味で進むなれば必ず成功する。我邦に於て、たゞ私立學校の振はないものあるは、眞劍味を缺いて居るものが多いからである。經營者は私利に囚はれ、職員は俸給目的で働き、生徒は教育虚榮にかられ、卒業證書目的で教場に出

ると云ふ状態で、ドウして其學校が榮えるでありませうか。

眞劍味をモットーとする諸君は、中京商業今日の盛運を以て満足せぬであらう。中京に於ける模範的私立學校では満足せぬであらう。全國に於ける中等學校中の中等學校、ひいては眞劍味の學校はこんなものであると、全世界に向つて、我等の誇りとならしめんことを諸君は期待して居ること、私は信ずる。

校主校長の眞劍味は云はずもがな、私は本校教職員諸君の眞劍味に心から敬意を表す。俸給生活者は、兎角眞劍味になり難いものである。それは、今日一日懶けたとて明日月給が減ると云ふ譯でなし、明日眞劍であつたからとて明後日昇給すると云ふ譯でもないからである。人は斯く近眼である。然し此が人格を得ると失ふとの分れ目である。眞劍味の場合である。

人は職業に生きる、諸君は子弟の教養に生きるのである。動物と共通である諸君の身体はパンに生きるも、人間特有の諸君の精神は教育に生きねばならぬ。諸君が早くも此理を悟られて、眞劍味で校長を助けられ、今日の成果を挙げられたことを思うて、私は心から諸君に敬意を表する。

此に私は眞剣味で、本校の前途を祝福して降壇致します。

昭和四年二月九日

十、小樽高商開校當時の思出

十年間の追憶も話せば短い意味は深い

(小樽高商開校十周年に當り
小樽新聞に掲げられたる記事)

四五日降り續いた雨も止んで天狗山がくつきりと青空に浮き出た秋の或る朝手は入れてあるが自然の趣を失はない立木の茂みを庭一杯に見渡す應接間で、渡邊校長は石橋教授と向ひ合ひに、十年前の追懷談を感慨深げにぼつ／＼語り出される。

〔明治三十五年我輩は當時清國直隸總督袁世凱の教育顧問として渡清したが、四十二年末歸朝すると同時に、文部省留學生として歐米に參ることになつた。始め三ヶ年滞在の豫定であつたが、本校開校の運びになり四十三年の暮歸朝命令に接したので、翌年一月三日愈々ベルリンを出立することにしたのである。其の日は數年來稀有の大降雪と云ひ、二週間を要して横斷したる西伯利亞の雪白なる大原野と云ひ、モスコイの嚴寒と云ひ、我輩は既に此時から雪には縁が深かつたと見える。偕て一月下旬に本校校長の任命を受けたので、取敢ず校舎の實地見分の爲め二月二十日に小樽に着いた。越中屋に旅装を解く間もなく、今の地獄坂を登つて行つたが、今では全く想像も及ばぬ荒涼たる無人境の觀があり、仰げば外觀のみ完成された校舎が山腹に唯一つ立

つてゐるが、道は意外にも長く、二月と云ふに流汗淋漓として拭ひもあえぬ。漸くにして校舎に辿りつけば休息すべき椅子一つ無く、全く山間の一軒家よりもひさしい。觀れば校舎は不完全であり、床は持ちあがつて扉は開かず、黑板は勿論肝腎の机がないのである、と云つて誰に愚痴を云ふ術もない。其れ許りか、第一に缺くことの出来ない教師の撰定が未だ出来てゐなかつたのである。我輩は曾て、東京高師に教授を勤め、東京音楽學校の校長に任ぜられたことはあつたが、七八年間支那に在つて暫く本邦の教育界を離れてゐた結果、事情不案内であり、之と校舎の現状を思ひ合せる時は四月の開校はとて不可能だと思つたので、翌年迄延期せんことを文部省に具申したが、當局は既に發表したことであり是非にと云ふこと、なり、遂に二月十八日生徒募集を發表した。應募者が要求する規則書もなければ案内書もなかつたが、三月二十九日より兎に角入學試験を行ふ迄になつたのである。試験委員は東京高等師範、東京高等商業の教授に委託し、一方急遽教授の選定に努めた。我輩が滯歐中、本校教授候補者である伴井浦兩氏にはベルリンで會つたが、ロンドンに在つた坂本氏には會ふ機會がなかつた。其他本校開校前に任定を終はつたのは、國松寺田八木の三教授及び石橋藤田の

二助教授のみであつた。

小樽で行ふ入學試験の準備のため藤田助教授が先發、國松教授も續いて小樽に出張せられたが、試験場には椅子も卓子もないと云ふ有様、止むを得ず區役所其他より借りて急場の用に備へたのであつた。應募者は百五十人餘りあつたが、合格した者は七十二名、それが卒業の時は更に五十名に減じた。土地が土地であり、第一回目であつた爲めでもあるが、學生は種々雑多で、中には餘程の年長者もあり、不良の者も居たが、卒業迄に自然に淘汰されて結局五十名の選良となつた譯である。

斯くて漸く開校したのは五月五日で、之れが本校が其日を記念日としてゐる所以である。所て、此の校舎に集まつた教授及び生徒は今云ふ如く多からぬ數ではあるが、之等の者が起居する家がなかつたのである。今から思へば嘘とも考へられることが事實であつたのだから驚くこと、思ふ止むなく校長始め教授の多くは直行寺と云ふ寺に合宿すること、し、生徒は今の雨天操場を假寄宿舎として梁山泊の生活を始めしめることになつた。我々の慰安所であるべき職員生徒の住居が斯んな状態にあつて萬事が之に準じたことを思ふと、今の學生達は教へられる所があるだらう。

斯んな生活が続くこと一ヶ年餘學生の寄宿舎として辛うじて金澤植物園内の古料理屋、中央停車場附近の病院の跡を借入れることが出来た。内地から来る者には直様に付くこと、思ふが、こちらには壁を用ゐた家が極めて少い。職員住宅も總べて壁なしのほつたて小屋であつた。校長は龍岡氏と云ふ人の住居を譲り受けて今に及んでゐるが、此家は其當時は全く大野原の裡に孤立してゐたもので、校長の野原か、野原の校長かと云はれた位、現在の緑町交番に至る道路には身長より高い草が生ひ繁つてゐて、端の方僅かに人の通行する小路があつたに過ぎなかつた。如何に不便であつたかの一例として想ひ出す話がある。或る大雪の日であつた、校長は生徒よりも早く登校せんと午前八時に家を出てたが、現在と異り、學校に行くには必ず緑町交番の所から地獄坂を登つて行く以外には登校の道がなかつたのである。雪は容赦もなく降つて積る。三步進んでは二歩退き漸く學校に来て見れば、既に十時を過ぎてゐたと云ふことがあつた。斯んな有様で非常な不便を味つてゐたが、同時に校内に於て良教授を得るのに更に一層の困難をしなければならなかつた。開校したる翌年、東京の關佐野神戸から津村、京都よりは小川郷太郎の諸博士、並に札幌の坂岡、森本兩博士、其他

小出橋本、高岡の諸博士に講師を委嘱し、逐次専任教官を得る様になつたが、始めは校長始め諸教授が種々なる科目を兼ねて教授したのであつた。大西教授等も一橋專攻部を卒業するや早々九月着任せられ、廣島商業の校長であつた竹谷氏又本校の教授として來樽、漸く校の内容が充實するに至つた。第二年目には伴井浦坂本諸教授歸朝したが、一方又大西教授の洋行となり、國松教授又其後を追ひ、職員補充再び困難を感じ始めた。折柄、例の商業界の好況に遭遇して、一度に正教授七名を失ふに至つたが、授業の上に大した不便も感じなかつたのは、其時は如何に本校の内容が充實してゐたかを窺はれる譯である。そして之等教授に代つて若手教授の入校を見て今日に及んでゐる。

當時の教授補充難、住宅難、寄宿舎難と現在とを想へば、天地雲泥の差と云はなければならぬ。寄宿舎の如きも今日の如く完備したものではなく、第一寄宿は雨天体操場に、第二は中央停車場附近の病院の跡に、第三は今の稅務署裏の長屋に、第四は金澤植物園内の料理屋の跡に、僅かに名ばかりの宿泊を求めたのであつた。然し斯かる不便不備の中にあつて、校長始め職員生徒及雇に至る迄、恰も一家族の如く常に團樂、愉快

なる日を過ぎしてゐた。或る時は校長住宅裏のテニスコートに於て職員生徒聯合の庭球大會を開き、終れば牛飯はなくとも馬食原遊會の始まるのを常とした。大西其他の教授の洋行の時なき、各寄宿舎に於て送別會が開かれ其行を壯にしたことを記憶する。

十年間の追憶も話せば短い。然し其意味は深い。西伯利亞の寶庫は無盡藏、日本民族の發展すべき土地は彼處より外にない。米國に支那に其殖民の道を閉された日本は、勢ひ此の方面に向はざるを得ない。今後の展開は對露に於て見る。將來の對露交渉は見るべきものがあると共に、彼の地に渡る者漸く多きを加へるであらう。小樽は其れに缺くべからざる足溜である。小樽は祝福されたる街と信ずる。本校は今十周年の祝日を迎へて我輩は更に一層の緊張を覺える者である。

十一、補論

商業經濟の歸趨としての世界經濟

名高商研究室發刊の雜誌は商業經濟論叢と命名され
たが、それは本編に顯はれたる趣旨に由るものである。

x

今の時代の我が國策は商業本位の産業立國か。
人は靈なりや肉なりやと昔から争はれた。然し之は學者や理論家が筆や口で争ふ所の問題で、誠の人は靈だか肉だか分らぬ程に爾かく調節宜しきを得たる靈肉融合體である。人は靈として考へる。肉として食はねばならぬ。食はねばならぬから、人は生の當初より經濟生活に入りて、如何に食ふべきかを考へたのである。

x

經濟には私經濟があり公經濟がある。又消費經濟があり生産經濟がある。人の經濟生活は、先づ私經濟消費經濟に始まるが、之が厚生に就て深く考ふるから、公經濟や生産經濟が顯はれたのである。

時代時代て人の經濟生活には特色がある。パラダイスに於けるアダム・エバの生活があつたとすれば、それは自然經濟の時代と云ふべきである。食ふも考へるも自然のまにまにてあつたからである。我等の祖先には水草を逐うて移住した時代があつたとすれば、それは遊牧經濟の時代である。春秋戰國の時代は軍國經濟の時代である。最近の歐洲大戰が三十年戰爭の如くに永く續いたなら、關係列國の產業組織は全然軍國經濟と變つたであらう。

もしそれ、歐洲中世紀は宗教經濟の時代とも云ひ得べきか。そもそも封建制度の下では士農工商の階級別歴然として存し、無論軍國經濟ではあるが、治世のつゞくに從つて、其の產業組織は農業本位となつた。鎖國的で自給自足を國策としたから、自然農業が第一位に置かれ、工商はあつても、從屬的產業の地位に置かれたのである。物々交換すら可能且つ容易の時代であつたから、商人の必要は認められなかつたのである。然るに、今の時代は商業經濟の時代である。即ち商業を中心として經濟政策が講ぜられねばならぬ時代である。

商業經濟の時代であるからとて、農工の必要なしと云ふ譯ではない。農業も工業も盛

んに奨励せられねばならぬが、然し、奨励の意義が違ふ。

農業經濟時代は自給自足を本義とし、商業經濟の時代は有無交易を本義とする。自給自足を本義とする時代の農業は、出来るだけ多種多様の生産をなして自家の必要を充たさねばならぬ。自家の衣食住に必要な總ての物品を産出せねばならぬ。然るに交易を本義とする商業經濟の時代の農業は、多種多様の生産でなく、適所適産の方針に由り、最も其の地味に適したるものを一種でも二種でも大量に生産して之を市場に鬻ぐのである。自給自足主義では、是非とも米を作り味噌を拵へ、屋根茅や棉其他何でも生活に必要なものを生産すべきであるが、商業經濟の見地からは、それは不經濟きはまる拙策と云はねばならぬ。地味にふさはしからぬ棉を作らむよりは、よりふさはしき桑を作り、外國人に絹を着せて、綿布は安く買うて着るべきである。何でもかんでも自分に作つた米を食はねばならぬといふ道理はないから、算盤に合ふなら全國を桑田化して南京米を食ふことにするのが、寧ろ商業經濟の本義である。工業に就ても亦然りである。算盤のもてぬ鐵の自給自足を講ずる如きは商業經濟の主旨に背反する。それよりは算盤のもてる製銅に力を入れて、鐵と交換するのがよいのである。